

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定

SCSI設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate

省スペース型
デスクトップ型
ミニタワー型

(Windows Meインストールモデル)

(Windows 98インストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』『6. マニュアルの使用方法』でご確認ください。

- ◆ 添付品の確認、本機の接続、Windows MeまたはWindows 98のセットアップ
→ 『はじめにお読みください 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』
- ◆ 本機を安全に使うための情報
→ 『安全にお使いいただくために』
- ◆ Windows Meの基礎知識、基本的な操作方法
→ 『Microsoft Windows Meクイックスタートガイド』または、Windows Meの「ヘルプとサポート」の中にある「Windows Millennium Editionを使う」。ご使用のモデルにより異なります。
- ◆ Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法
→ 『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』。ご使用のモデルにより異なります。

このマニュアルです

- ◆ 本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンド
→ 『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』(電子マニュアル)
- ◆ 本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)
- ◆ トラブル解決方法
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)
- ◆ Windows Meの再セットアップ方法
→ 『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)。ご使用のモデルにより異なります。
- ◆ Windows 98の再セットアップ方法
→ 『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)。ご使用のモデルにより異なります。
- ◆ 本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明
→ 『ハードウェア拡張ガイド 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』(電子マニュアル)
- ◆ ディスプレイの利用方法
→ 液晶ディスプレイ、CRTディスプレイがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルにより異なります。
- ◆ 選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→ Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10バック & 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。
- ◆ メンテナンスとサポート情報の紹介およびパソコンに関するNECの相談窓口や受贈施設、故障時のサービス網の紹介
→ 『NEC PCあんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>

はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX シリーズ Mate

MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、

MA66H/Z、MA66H/L

MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S

MA10T/M、MA80T/M

(Windows Meインストールモデル)

(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PART5 付録」をご覧ください。

2000年10月 初版

このマニュアルの表記について

◆ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

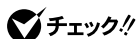
人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。



メモ

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

Me...

Windows Meに特有の機能や操作について説明しています。

98...

Windows 98に特有の機能や操作について説明しています。

このマニュアルでは、機種ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。



省スペース型



デスクトップ型



ミニタワー型

◆ このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NXシリーズ Mate MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S MA10T/M、MA80T/M (Windows Meインストールモデル) (Windows 98インストールモデル) ＊本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S MA10T/M、MA80T/Mを指します。
省スペース型	次の機種を指します。 MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L
デスクトップ型	次の機種を指します。 MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S
ミニタワー型	次の機種を指します。 MA10T/M、MA80T/M
NetPCモデル	フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。次の機種を指します。 MA66H/Z
ディスプレイセットモデル	CRTディスプレイまたは液晶ディスプレイとセットでご購入いただいたモデルです。
アプリケーションレスモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Personalモデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Professionalモデル	Office 2000 Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル	一太郎10・花子10パックおよびロータス1-2-3 2000がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。

「スタート」ボタン→ 「設定」→ 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。

◆ このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版およびMicrosoft® Windows® 98 Second Edition Operating System日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Pub- lisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
一太郎10・花子10パック	一太郎10・花子10パック/R.2(一太郎10/R.2、花子10/R.2、三四郎 9/R.2、ATOK13/R.2)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000
スーパーディスク	SuperDisk™

◆ このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・ このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、エネルギースター対応のモデルが国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。

対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-DJP-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」または「MDMDJPNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブが搭載されています。

■高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows MeまたはWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (10) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2000年9月現在のものです。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Active Movie、NetMeeting、Outlook、PowerPoint、Bookshelf、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10パック/R.2」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10パック/R.2」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanおよびPGPは、米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

nVIDIA、nVIDIAロゴ、Vantaは、nVIDIA社の商標です。

pcAnywhereはSymantec Corporationの米国における登録商標です。

Intel、Pentium、CeleronおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における商標および登録商標です。

Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジーを使用しています。

SCSI SELECT™は、Adaptec, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

SuperDisk、SuperDiskロゴは、米国イメーション社の商標です。

PrebootManagerは、Phoenix Technologies Ltdの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of International Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART5までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。

索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック!!)、用語(🔍用語🔍)、メモ(📝メモ📝)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

デスクトップ型を利用する場合は、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」をご覧ください。

PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)

デスクトップ型を利用する場合のBIOSセットアップメニューについて説明しています。

PART4 SCSI設定

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルのユーティリティ「SCSI SELECT」のSCSIの設定方法について説明しています。

PART5 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	8
このマニュアルの構成・読み方	10
目次(このページです)	11
索引	16

本体の構成各部 21

各部の名称	22
本体正面	22
本体背面	28
電源(Windows Meの場合)	34
電源の状態と操作方法	34
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	36
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	38
休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)	42
電源の自動操作	44
電源(Windows 98の場合)	47
電源の状態と操作方法	47
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	49
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	51
電源の自動操作	54
電源の管理について(APMモード/ACPIモード)	56
キーボード	62
添付されるキーボードの種類	62
使用上の注意	62
PS/2 109キーボード、USB109キーボード、 テンキー付きPS/2小型キーボード	63
USB小型キーボード	66
USB98配列キーボード	68
日本語入力	70
USB接続のキーボードの使用上の注意	72
マウス	73
マウスについて	73

ディスプレイ	74
使用上の注意	74
表示能力	75
ディスプレイの省電力機能	79
別売のディスプレイを使う	79
ハードディスクドライブ	80
使用上の注意	80
ドライブ番号の割り当て	82
スキャンディスクの操作手順	84
フロッピーディスクドライブ	88
使用上の注意	88
使用できるフロッピーディスク	88
フロッピーディスクの内容の保護	90
スーパーディスクドライブ	91
使用上の注意	91
使用できるディスク	91
ディスク内容の保護	92
ディスクのフォーマット	93
非常時のディスクの取り出し	93
CD-ROMドライブ	94
再生できるCDの種類	94
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)	96
非常時のディスクの取り出し	97
CD-R/RWドライブ	98
再生できるCDの種類	98
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット	98
非常時のディスクの取り出し	99
サウンド機能	100
音量の調節	100
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	101
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	101
LANの設定(Windows Meの場合)	102
LANの設定(Windows 98の場合)	103

ネットワークパスワードの変更について(Windows Meの場合)	104
ネットワークパスワードの変更について(Windows 98の場合)	106
リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)	108
リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)	113
FAXモデムボード	117
FAXモデムボードについて	117
FAXモデムボードを使用するときの注意	117
Mateセキュリティ/マネジメント機能	120
セキュリティ/マネジメント機能の概要	120
セキュリティ機能	121
マネジメント機能	125
システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)	129
BIOSセットアップメニューについて	130
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	130
BIOSセットアップメニューの終了	131
工場出荷時の設定値に戻す	131
Mainの設定	133
Mainの設定	133
Advancedの設定	137
Advancedの設定	137
Securityの設定	146
Securityの設定	146
パスワードの解除	151
Powerの設定	152
Powerの設定(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合)	152
Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)	154
Bootの設定	159
電源の設定	159
起動順位の設定	160

システム設定(デスクトップ型の場合) 163

BIOSセットアップメニューについて 164

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面 164

BIOSセットアップメニューの終了 165

工場出荷時の設定値に戻す 165

Standard CMOS Setupの設定 166

Standard CMOS Setupの設定 166

Advanced CMOS Setupの設定 169

Advanced CMOS Setupの設定 169

Advanced Chipset Setupの設定 174

Advanced Chipset Setupの設定 174

Power Management Setupの設定 175

Power Management Setupの設定

(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合) 175

Power Management Setupの設定

(Windows 98のAPMモードの場合) 178

PCI / Plug and Play Setupの設定 183

PCI / Plug and Play Setupの設定 183

Peripheral Setupの設定 184

Peripheral Setupの設定 184

Hardware Monitor Setupの設定 187

Hardware Monitor Setupの設定 187

Auto-Detect Hard Disksの設定 188

Security Setupの設定 189

Security Setupの設定 189

パスワードの解除 190

SCSI設定 191

SCSI SELECTについて 192

SCSI SELECTでの設定が必要な場合 192

使用上の注意 192

SCSI SELECTでの設定項目 194

SCSI SELECTの設定項目一覧と初期設定	194
SCSI SELECTの画面の説明	195
SCSI SELECTの構造	196
各画面の説明	197
付 録.....	219
機能一覧	220
型番の読み方	220
仕様一覧	220
割り込みレベル・DMAチャンネル	231
本機のお手入れ	233
マウスのクリーニング	234
スーパーディスクドライブのクリーニング	236

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	101	CD-ROM	94
100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ	30	CD-ROMアクセスランプ	27
109キーボード	63	CD-ROMドライブ	25, 94
10BASE-T	101	Chassis Intrusion	144, 187
121ware	127	Cover Open Check	149
3.5インチフロッピーディスクドライブ ..	24	DATユニット	206
98配列キーボード	68	DFP	79
AC97 Audio	142	Diskette Access	148
AC97 Modem	142	DMAチャンネル	231
ACPIモード	56	DMI Event Logging	142
AC電源コネクタ	29	DPMS	79
APMモード	56	DV15A3	76, 78
Assign HDD Password	149	DV17D2	76, 78
ATOK	70	Event Logging	142
ATコマンド	117, 230	Extended Memory	136
Auto Suspend Timeout ..	153, 155	F14T52	75, 77
BIOS LOCK	121	F15R42W	75, 77
BIOS Revision	136	F15S32	75, 77
BIOSセットアップメニュー	130	F15T42	75, 77
Boot-time Diagnostic Screen	135	F18S1W	75, 77
BootUp Num-Lock	172	FAX機能	230
CD-R/RWアクセスランプ	27	FAX通信機能	117
CD-R/RWドライブ	25, 98	FAXモデムによる電源の自動操作 ..	46, 56
		FAXモデムボード	30, 117
		FAXモデムボード機能仕様	230

FE90	76, 78	PCI Configuration	137
Floppy Access Control	172	PCIスロット	32
Hard Disk Timeout	153, 155	Peripheral Setup	184
I/O Device Configuration	138	PGP Personal Privacy	122
I/Oロック	122	PIRQ [A] IRQ Active	176
IEC825	7	PK-CA101	31
IRQ	137	PK-CA102	32
ITU-T	117	PK-FP002	121
JIS	7	PK-MC202	72
K56flex	117	PK-MC202E	72
Keyboard Power On	153, 157	PK-SM001	121
LANDesk(R)Service	143	PK-SM003	121
LANの設定	102, 103	PK-UP001	72
LANボード	30	PK-UP004E	72
LANボード機能仕様	229	PK-UP008	72
Local Bus IDE adapter	141	Plug & Play O/S	137
MIDI/Joystickコネクタ	33	Plug and Play Aware O/S	183
Mouse Power On	153, 157	PME	154, 158, 159
MS-IME	70	Power Button Behavior	153, 156
NetPC	5	Power Button Function	175
Network Boot Setting	148	Power Loss Resume	153, 157
Nキーロールオーバー	62	Power Savings	152
OFF state Alert II	128	Preboot Management	143
Office 2000	70	Pri Master	167
On PME	159	Pri Slave	167
OnBoard AC'97 Audio	185	Primary Master	134
Password Check	189	Primary Master IDE Access	176
PC-11-1988	7	Primary Slave	134
PC-9800	31, 32, 89	PS/2接続キーボードコネクタ	32
PC-M-SCUWS2	192	PS/2接続マウスコネクタ	33

QuickBoot	141, 170
QuickBoot Mode	141
Removable Devices	160
Restore On AC/Power Loss ...	159
Resume By PME From Soft Off ...	177
Resume On Modem Ring ...	153, 157
Resume On PME	153, 158
Ring Resume From Soft Off ...	177
RS-232C変換アダプタ	32
SCSI SELECT	192, 194
SCSIインタフェースボード	33
Sec Master	168
Sec Slave	168
Secondary Master	134
Secondary Slave	134
Security Mode	147
Set Supervisor Password	146
Set User Password	147
Sound	142
Suspend Timeout(Minute) ...	175
System backup reminder	149
System Memory	136
System Switch	153, 156
Ultra SCSI	192
Ultra SCSIインタフェースボード (Wide対応)	192
USBケーブルフック	22, 27
USBコネクタ	27, 29
USBハブ	72
VCCI	7

VESA	79
Virus check reminder	148
Windowsキー	64, 66, 69

ア行

アース端子	32
アナログRGBコネクタ	31
アプリケーションキー ...	64, 66, 69
イラスト	6
ウイルス	123
ウィンドウアクセラレータ	74
液晶ディスプレイ	74
エネルギースター	7, 45, 79
エンドユーザ管理	123
オフ	79
音量の調節	100

カ行

解像度	75
書き込み禁止	90, 92
型番の読み方	220
カバーセンサ	124
カバーをロック	124
画面	6
キーボード	62
キーロールオーバ	62
起動順位	159
休止状態	42
筐体ロック	32, 123
クライアントモニタリング	128

クリーニングキット	236
ケーブルストッパ	28, 29, 33
工場出荷時の設定値	131
高調波電流規制	7
小型キーボード	66
コンプリートオフ	79

サ行

サウンド機能	100
サスペンド	79
資源管理	128
自己診断画面	135
瞬時電圧低下	7
状態監視	128
省電力機能	79
初期化	137
シリアルコネクタ	32
スーパーディスクドライブ	24, 91
スキップセクタ	81
スキャンディスク	84
スクロールボタン	73
スタビライザ	27
スタンバイ	79
スタンバイ状態	34, 47
スマートカード	121
ソフトウェアパワーOFF機能	125

タ行

タイマ	45, 54
通風孔	32

データ通信機能	117
ディスクアクセスランプ	24
ディスクイジェクトボタン	24
ディスクトレイイジェクトボタン	27
ディスプレイ	74
適用電話回線	117
デジタルRGBコネクタ	31
テンキー付きPS/2小型キーボード	63
電源	34, 47, 159
電源スイッチ	24
電源ランプ	24
電波障害	7
電話回線用モジュラーコネクタ	31
電話機用モジュラーコネクタ	31
盗難防止	32
ドライブ番号	82

ナ行

内蔵スピーカボリューム	25
日本語入力	70
認証番号	7
ネットワーク通信/接続ランプ	31
ネットワークブート	127

ハ行

ハードディスクアクセスランプ	24
ハードディスクドライブ	80
ハードディスクパスワード	123, 149
ハイパワーデバイス	72
パケット	126

パスワード	104, 106
バックアップ	80
ハブ	101
パラレルコネクタ	31
表示色	75
ファイルベイ	27
ファイルベिकाバー	27
フォーマット	88, 91, 93
復帰	35, 36, 48
不良セクタ	81
プリンタインターフェース変換アダプタ	31
フロッピーディスクドライブ	88
フロントマスク	27
ヘッドホン端子	25, 26
ヘッドホンボリューム	26
保守用FDDコネクタ	33
本機	5
本機のお手入れ	233
本体	5

マ行

マイクロホン端子	25, 29
マウス	73
マネジメント機能	120
マルチポートリピータ	101
ミニDIN6ピン	32
ミニジャック	29
メンテナンスウィザード	86, 87

ヤ行

ユーザパスワード	146
輸出	9

ラ行

ライトプロテクト	90, 92
ライトプロテクトノッチ	90, 92
ライン出力端子	29
ライン入力端子	29
リフレッシュレート	74
リモートコントロール	127
リモートパワーオン機能	46, 56, 126
リンクケーブルの接続	101
ルーフカバーオープン検知	124
レーザ安全基準	7
ローパワーデバイス	72
漏洩電流自主規制	7

ワ行

割り込みレベル	231
---------	-----

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称	22
電源(Windows Meの場合)	34
電源(Windows 98の場合)	47
キーボード	62
マウス	73
ディスプレイ	74
ハードディスクドライブ	80
フロッピーディスクドライブ	88
スーパーディスクドライブ	91
CD-ROMドライブ	94
CD-R/RWドライブ	98
サウンド機能	100
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	101
FAXモデムボード	117
Mateセキュリティ/マネジメント機能	120

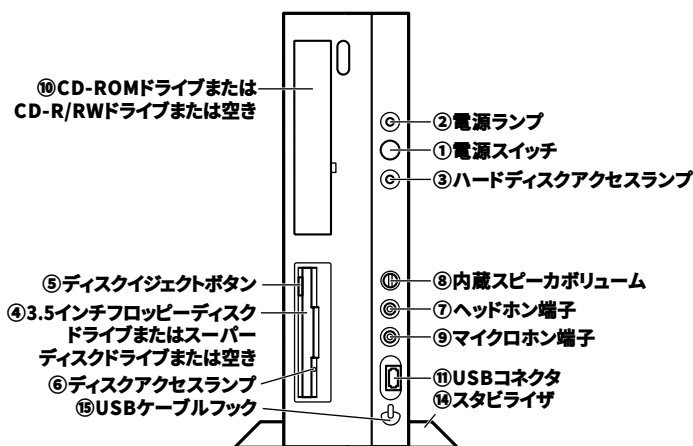
各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面

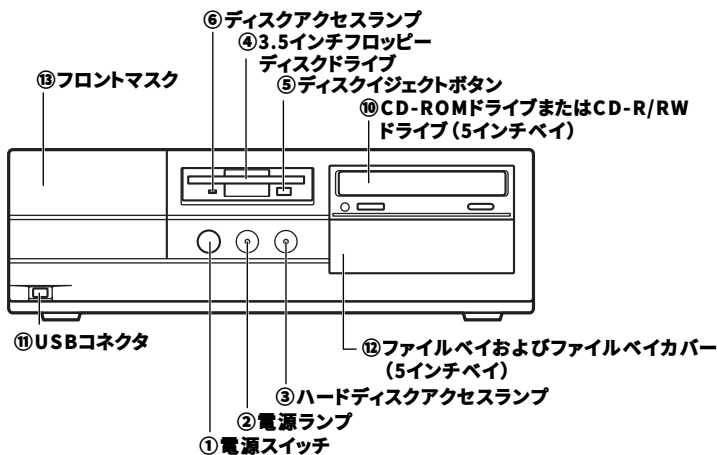


■ MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L
の場合

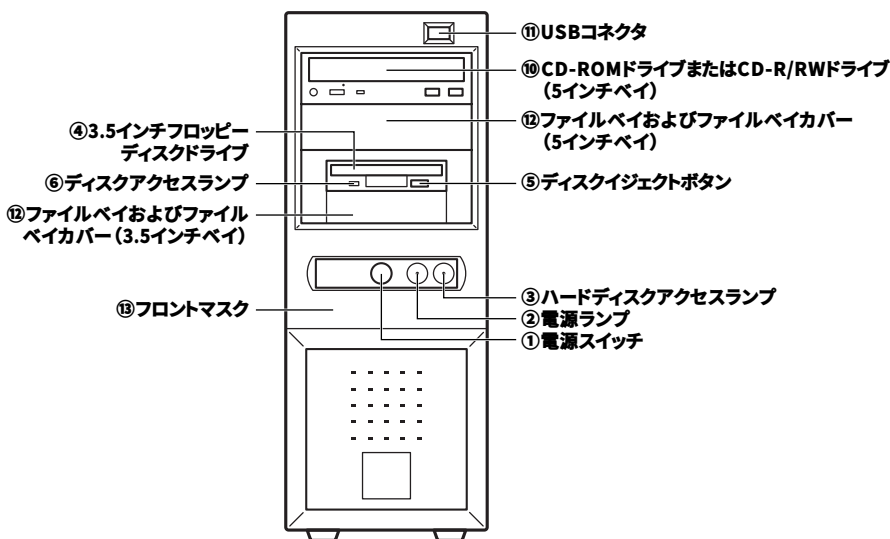




■ MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合



■ MA10T/M、MA80T/Mの場合



①電源スイッチ(省スペース型、デスクトップ型:⏻)(ミニタワー型:⏻/⏻)

Me… 本体の電源の状態を変更(入れる/切る、スタンバイ/スタンバイからの復帰、休止/休止状態からの復帰)するスイッチです。

→「電源(Windows Meの場合)」(P.34)

98… 本体の電源の状態を変更(入れる/切る、スタンバイ/スタンバイから復帰)するスイッチです。→「電源(Windows 98の場合)」(P.47)

②電源ランプ(省スペース型、デスクトップ型:💡)(ミニタワー型:💡/💡)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。→「電源(Windows Meの場合)」(P.34)、「電源(Windows 98の場合)」(P.47)

③ハードディスクアクセスランプ(💡)

IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。

工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、追加ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ(セカンダリマスタ)があります。なお、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの種類によっては、点灯しないことがあります。

→「ハードディスクドライブ」(P.80)、「CD-ROMドライブ」(P.94)、「CD-R/RWドライブ」(P.98)



チェック!!

ハードディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

④3.5インチフロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。

→「フロッピーディスクドライブ」(P.88)

さらにスーパーディスクドライブでは、スーパーディスクに大容量のデータを書き込むことができます。

→「スーパーディスクドライブ」(P.91)

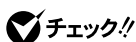
NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

⑤ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクやスーパーディスクを取り出します。

⑥ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが動作しているときに点灯します。



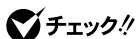
チェック!!

ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクやスーパーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。



⑦ ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。ヘッドホンを耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。



チェック!!

ヘッドホンで音声を聞く場合、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決Q&A』をご覧ください。設定の変更を行ってください。



⑧ 内蔵スピーカボリューム(□▶▶)

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。→「サウンド機能」(P.100)



⑨ マイクロホン端子(◐◑)

ミニプラグのマイクロホンを接続します。→「サウンド機能」(P.100)

⑩ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたは空き

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。

→「CD-ROMドライブ」(P.94)

さらにCD-R/RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。→「CD-R/RWドライブ」(P.98)

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを取り外して、他のファイレベ이용内蔵機器に交換することができます。

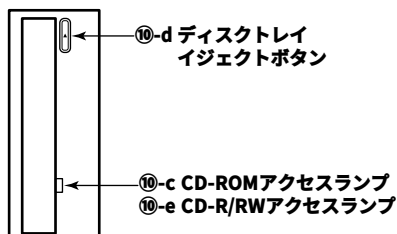
→『ハードウェア拡張ガイド』



■ 省スペース型の場合

CD-ROMドライブおよびCD-R/RWドライブ拡大図

NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

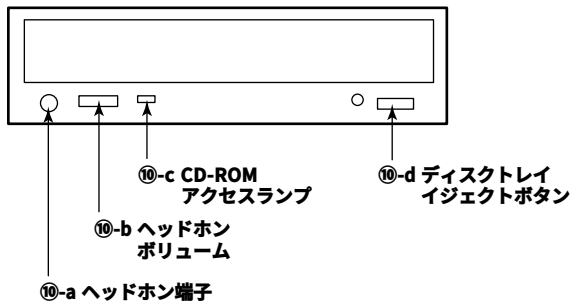




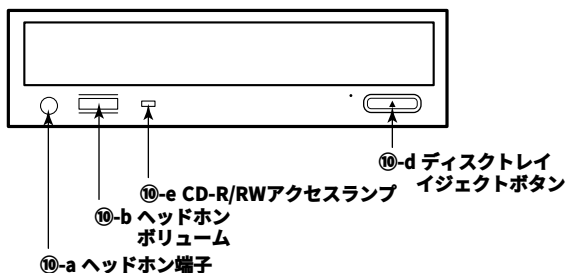
■デスクトップ型、ミニタワー型の場合

CD-ROMドライブ拡大図

※機種によってボタン、ランプなどの位置が異なる場合があります。

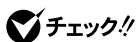


CD-R/RWドライブ拡大図



⑩-a ヘッドホン端子(〇)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞けるのは、音楽CDの再生音だけです。ヘッドホンに耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。



チェック!!

ヘッドホンで音声を聞く場合、『活用ガイド ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」をご覧ください。設定の変更を行ってください。

⑩-b ヘッドホンボリューム

CD用ヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

⑩-c CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

⑩-d ディスクトレイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

⑩-e CD-R/RWアクセスランプ

CD-R/RWドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

CD-R/RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

⑪ USBコネクタ (USB)

USB機器を接続します。→「キーボード」(P.62)



⑫ ファイルベイおよびファイルベイカバー

ファイルベイ用内蔵機器を取り付けます。ファイルベイにはサイズの違いにより、3.5インチベイ、5インチベイの2種類があります。

ファイルベイに、リムーバブルメディア用の内蔵機器を取り付けるときには、このファイルベイカバーを取り外し、別売のファイルベイカバーを取り付けます。

参照

本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

⑬ フロントマスク

本体前面のカバーです。



⑭ スタビライザ

本体を安定させるための脚です。



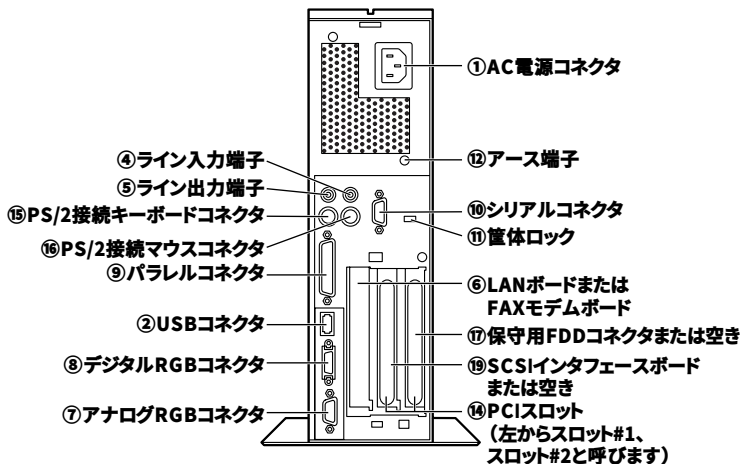
⑮ USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

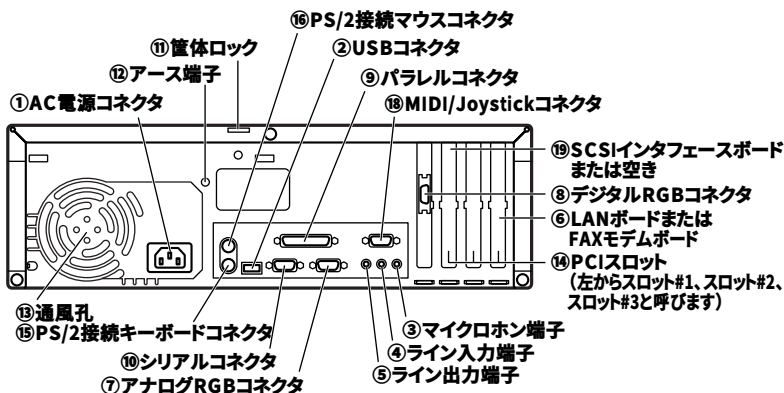
本体背面



■ MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L の場合

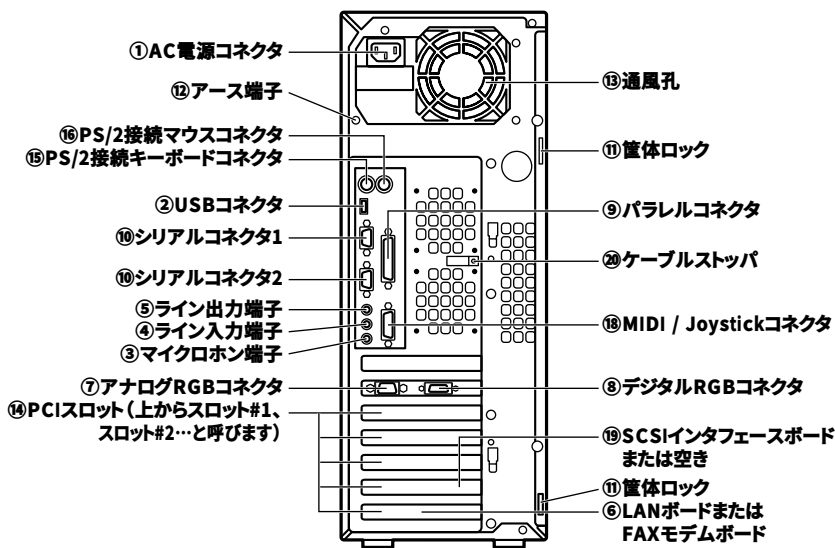


■ MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合





■ MA10T/M、MA80T/Mの場合



① AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。
添付の電源ケーブルを接続します。

② USBコネクタ ()

USB機器を接続します。→「キーボード」(P.62)



③ マイクロホン端子 (ミニジャック) ()

市販のマイクロホンを接続します。

④ ライン入力端子 (ミニジャック) ()

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

⑤ ライン出力端子 (ミニジャック) ()

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

⑥ LANボードまたはFAXモデムボードまたは空き

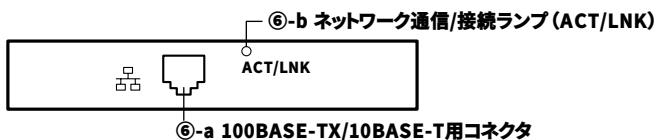
LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.101)

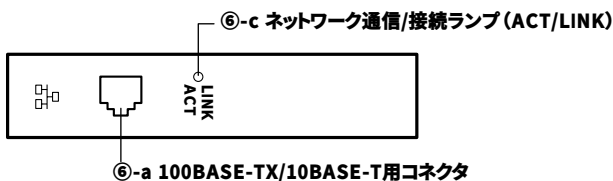
FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、データ通信やFAXの送受信などを行うことができます。→「FAXモデムボード」(P.117)

LANボード拡大図

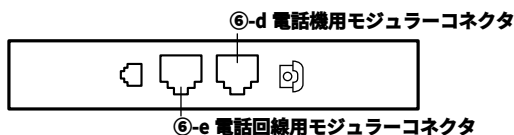
■ MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合



■ MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合



FAXモデムボード拡大図



⑥-a 100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ()

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

⑥-b ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LNK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

⑥-c ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LINK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。

- ・ 100Mbpsネットワーク接続時は緑色に点滅/点灯します。
 - ・ 10Mbpsネットワーク接続時は黄色に点滅/点灯します。
- ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

⑥-d 電話機用モジュラーコネクタ()

電話機を接続します。

⑥-e 電話回線用モジュラーコネクタ()

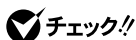
電話回線を接続します。

⑦ アナログRGBコネクタ()

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。
→「ディスプレイ」(P.74)

⑧ デジタルRGBコネクタ()

デジタルインタフェースのディスプレイを接続します。
→「ディスプレイ」(P.74)

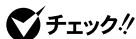


チェック!!

アナログRGBコネクタとデジタルRGBコネクタは、同時に利用できません。

⑨ パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

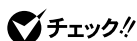


チェック!!

- ・ PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。
- ・ パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。

⑩シリアルコネクタ1,2(1, 2)、またはシリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。



- ・ PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
- ・ RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用できます。なお、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合はRS-232C変換アダプタは利用できません。
- ・ 周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。また、隣り合ったコネクタに同時に変換アダプタを接続すると、変換アダプタ同士がぶつかり合って接続できない場合があります。

⑪筐体ロック()

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

→「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)

⑫アース端子()

アース線を接続します。

⑬通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

⑭PCIスロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入するスロットです。モデルによっては、LANボード、FAXモデムボード、SCSIインタフェースボードなどが挿入されています。

→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.101)、「FAXモデムボード」(P.117)、「PART4 SCSI設定」



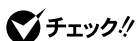
本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

⑮PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。→「キーボード」(P.62)

⑯ PS/2接続マウスコネクタ(⌘)

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス(ミニDIN6ピン)を接続します。→「マウス」(P.73)



チェック!!

ミニタワー型をご利用の場合、PS/2接続コネクタから電源供給を必要とする周辺機器を使用するには、PS/2接続キーボードコネクタに接続してください。



■ MA66H/Z

⑰ 保守用FDDコネクタまたは空き

NetPCモデルの場合、再セットアップするために別売の外付けのフロッピーディスクドライブを接続します。



■ MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S、MA10T/M、MA80T/M

⑱ MIDI/Joystickコネクタ

MIDI/Joystickコネクタは利用できません。また、このコネクタにはディスプレイを接続しないでください。発火の原因になります。

⑲ SCSIインタフェースボードまたは空き

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)が内蔵されたモデルは、SCSIインタフェースを持つ機器と接続できます。

→「PART4 SCSI設定」、『ハードウェア拡張ガイド』



⑳ ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。→『ハードウェア拡張ガイド』

電源(Windows Meの場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。



●電源が切れている状態

Windows Meを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

●電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

●スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

●休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯 ※
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯 ※
休止状態	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯 ※

※使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

●電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

●電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「終了」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

●スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する

●スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

●休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システム休止状態」で設定する

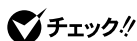
●休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

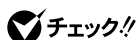
電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック!!

電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

- 1 フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる
- 3 本体の電源スイッチを押す

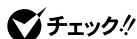


チェック!!

メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBを2枚増設した場合、約6秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

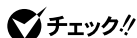


チェック!!

電源投入後、Windows Meの起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

■「スタート」ボタンによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する



チェック!!

FAXモデムボードを搭載したモデルで通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

3 「終了」を選択して「OK」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

■電源スイッチによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 電源スイッチを押す

自動的に電源が切れます。

△注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

3 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る



- ・「電源の管理」では次の設定が行えます。
 - ・ 電源スイッチの変更(スタンバイ、休止状態、電源オフ)
 - ・ 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)
- ・ ソフトウェアのエラーなどで、Windows Meの操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」をご覧ください。

参照 ▶ 「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 ▶ 「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ



チェック!!

スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。



チェック!!

リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の状態に更新するため不定期にスタンバイ状態が解除される場合があります。

■「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠ 注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、次の方法があります。

■入力デバイスによる方法

- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。



チェック!!

一度操作しても画面が元に戻らない場合は、もう一度マウスを動かすか、キーボードのキーを押してください。

■ 電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

△ 注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

● スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- ・ 停電が起きたとき
- ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

● スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行くと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき

- ・ Windows Meの起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

●その他の注意

- ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ SCSIインタフェースボードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。
- ・ スタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。

●スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって休止状態/休止状態からの復帰を行うには、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。



「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ

休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があります。



チェック!!

- ・ リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の状態に更新するため不定期に休止状態が解除される場合があります。
- ・ Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルをご利用の場合、SCSI機器を利用しているときは休止状態にはなりませんので設定はしないでください。

■「スタート」ボタンによる方法

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

2 「休止状態」を選択して「OK」ボタンをクリック

作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

■電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

△ 注意

電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

1 電源スイッチを押す

Windows Meが起動し、前回休止状態機能を使用して電源を切ったときと同じ状態に復元されます。

休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

● 休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
- ・ 周辺機器の構成を変更(取り付け/取り外し)したとき

また、次のような状態で休止状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- ・ Windows Meの起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

● その他の注意

- ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。

- ・ 休止状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- ・ SCSIインタフェースボードを使用している場合、休止状態にできません。SCSI機器をご利用になる場合は、本機が自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

● 休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ 休止状態にする前の内容に復帰できない
- ・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ、LAN(ローカルエリアネットワーク)、回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック!!

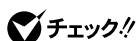
タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ

■「電源の管理」の「システムスタンバイ」、「システム休止状態」

「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。

また、「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システム休止状態」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的に休止状態にすることができます。工場出荷時の「電源オプション」は次のように設定されています。



チェック!!

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルをご利用の場合、SCSI機器を利用しているときは休止状態にはなりませんので「電源の管理」の「システム休止状態」は設定しないでください。

「電源の管理」 の設定 本体	モニタの 電源を切る	ハードディスク の電源を切る	システム スタンバイ	システム 休止状態
エネルギースター対応	約15分	約30分	なし	約20分
エネルギースター未対応	約15分	約30分	なし	なし

参照

「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ

メモ

エネルギースター対応のモデルは、省エネのため工場出荷時に休止状態になるように設定してあります。本機が該当するかは、型番を調べればわかりますので、『はじめにお読みください 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』をご覧ください。

■ Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」
「Timer-NX」、Timer-NXのオンラインヘルプ

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照 「Mateセキュリティ/マネジメント機能」「マネジメント機能」「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.126)
「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)」(P.108)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態または休止状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」
「Timer-NX」、Timer-NXのオンラインヘルプ

電源(Windows 98の場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



●電源が切れている状態

Windows 98を終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

●電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

●スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯 ※
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯 ※

※使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

●電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

●電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

●スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する

●スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

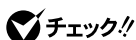
電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック!!

電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

- 1 フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる
- 3 本体の電源スイッチを押す

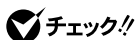


チェック!!

メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBを2枚増設した場合、約6秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

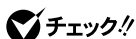


チェック!!

電源投入後、Windows 98の起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

■「スタート」ボタンによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する



チェック!!

FAXモデムボードを搭載したモデルで通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

- 2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

- 3** 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了
処理中に電源スイッチを押さないでください。

- 4** 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周
辺機器の電源を切る

■ 電源スイッチによる方法

- 1** 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

- 2** 電源スイッチを押す

「Windowsを終了します。よろしいですか? OK/キャンセル」と表
示されます。

△ 注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上
押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に
電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

- 3** 「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

- 4** 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周
辺機器の電源を切る



ソフトウェアのエラーなどで、Windows 98の操作ができなくなってい
しまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決Q&A』をご
覧ください。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、システムスイッチを変更する必要があります。

参照

システムスイッチの変更→「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)」(P.154)、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」 「Power Management Setupの設定(Windows 98のAPMモードの場合)」(P.178)



チェック!!

スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

■「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

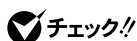
△ 注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の方法があります。

■入力デバイスによる方法



チェック!!

PS/2キーボード/マウスのモデルをACPIモードに変更した場合、PS/2キーボードによるスタンバイからの復帰はできません。ただし、PS/2マウスからは復帰できます。

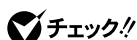
- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

■電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

⚠ 注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。



チェック!!

LANボードを搭載したモデルの場合、接続先がないと起動やスタンバイからの復帰が20秒ほど長くなることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決Q&A』『電源を入れたが…』を参照して、設定の変更を行ってください。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき
スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
 - ・ 停電が起きたとき
 - ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき
- このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした…」と表示されますので、画面の指示に従ってください。

●スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
- ・ LANケーブルの抜き差しをするなど、本機的环境や構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- ・ Windows 98の起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。したがって、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、スタンバイ機能を使用してください。

●その他の注意

- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。

- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ ネットワークの設定がTCP/IPでDHCPサーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたが…」をご覧ください。

● スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
 次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)、回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

■ BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューの「Power」の「Auto Suspend Timeout」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスがない場合、自動的にサスペンド状態にすることができます。

参照

「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)」(P.154)、 「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」 「Power Management Setupの設定(Windows 98のAPMモードの場合)」(P.178)

■「電源の管理」の「システムスタンバイ」

「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約15分でディスプレイの電源を、約30分でハードディスクドライブの電源を切るように設定されています。



チェック!

ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」は「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」→15分後

「モニタの電源を切る」→5分後

例2:

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→なし

参照

「電源の管理について (APMモード/ACPIモード)」(P.56)、Windows 98のヘルプ

■Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切る、またはスタンバイ状態から復帰することができます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるのは、APMモードで使用しているときだけです。ACPIモードでは使用できません。

参照

「電源の管理について (APMモード/ACPIモード)」(P.56)

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』
「Timer-NX」、Timer-NXのヘルプ

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照

「Mateセキュリティ/マネジメント機能」「マネジメント機能」「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.126)

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)」(P.113)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』『Timer-NX』、Timer-NXのヘルプ

電源の管理について(APMモード/ACPIモード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードを使うことができます。本機は工場出荷時の状態では、APMモードに設定されています。

用語 APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは本体や周辺機器の電源の管理を、BIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

用語 ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、本体や周辺機器の電源の管理をOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみで、Windows 98で実現できるようになりました。

モードの確認

どちらのモードで動作しているかは「デバイスマネージャ」で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 「システムデバイス」をクリック
以下の情報が表示されます。
 - ・ APMモードのとき：アドバンスド パワーマネジメント サポート
 - ・ ACPIモードのとき：ACPIxxxxx

APMモードからACPIモードへの切り替え方法

APMモードからACPIモードへ切り替える際には、Windows 98に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。



チェック!!

- ・ ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを1つ使用します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み(IRQ)を確認してから行ってください。
- ・ モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。
- ・ APMモード(工場出荷時)からACPIモードに切り替えた後、ACPIモードからAPMモードに戻すには再セットアップが必要です。

参照

再セットアップ→『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック
- 2 エクスプローラから「C: \MODECHG\ACPI_APM.VBS」をダブルクリック
- 3 「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 4 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 5 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 6 「ハードウェアの追加」をダブルクリック
- 7 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面で「次へ」ボタンをクリック
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 9 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 10 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検索されます。」と表示されたら、「はい(通常はこちらを選んでください)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 11 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ハードウェアの検出が始まります。
- 12 「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック



チェック!!

- ・ 「次のプラグアンドプレイデバイスがインストールされました。」と表示された場合、「ほかのデバイスをインストールする」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- ・ Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示された場合は、本体ハードディスクにあるC:\WINDOWS\OPTIONS\CABSフォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
- ・ APMモードからACPIモードへの切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が640×480の16色モードになる場合があります。切り替え完了後、画面のプロパティで元の設定に再設定してください。

13 ハードウェアウィザード終了後、「コンピュータを再起動してください」と表示されるので「はい」ボタンをクリック

 **チェック!** 途中で再起動を促す画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

14 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック

15 エクスプローラから「C:\MODECHG\APMOFF2.REG」をダブルクリック

16 「情報をレジストリに追加しますか？」と表示されるので「はい」ボタンをクリック

17 「レジストリに正しく入力されました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

3モードFDドライバの再セットアップの設定があります。なお、ACPIモードに変更後にリモートパワーオン機能を使用する場合、「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)」(P.113)をご覧ください。

■3モードFDドライバの再セットアップ

APMモードからACPIモードへ切り替え後、1.2MBフロッピーディスクが使用できなくなった場合は、以下の手順で3モードFDドライバを組み込み直してください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「システム」をダブルクリック

3 「デバイスマネージャ」タブをクリック

4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリック

5 表示されたドライバ名の中に以下のドライバが存在するか確認する

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Lの場合〉
「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」

〈MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
「Winbond 3-mode Floppy Controller」

 **チェック!!** ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」または「Winbond 3-mode Floppy Controller」が存在しなかった場合には、6～9の手順は必要ありません。手順10へ進んでください。

6 「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」または「Winbond 3-mode Floppy Controller」をクリックして反転表示させて「削除」ボタンをクリック

7 「デバイス削除の確認」が表示されたら、「OK」ボタンをクリック

8 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリック

9 Windows 98を再起動する

 **チェック!!** 再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その場合は、手順19が終了した後に、ディスプレイの表示の設定を変更して元の解像度、色数に戻してください。

10 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

11 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

 **チェック!!** 新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケーションがある場合にはすべて終了させてください。

12 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

13 「システムにあるプラグ アンド プレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
検索が開始されます。

- 14** 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 15** 「プラグ アンド プレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検出されます。」と表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 16** 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 17** 製造元とモデルを選択する画面が表示されるので、製造元からは「NEC」または「Winbond Electronics Corp」をモデル一覧からは以下のドライバを選択し、「次へ」ボタンをクリック
- 〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Lの場合〉
「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」
- 〈MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
「Winbond 3-mode Floppy Controller」
- 18** 「完了」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。
- 19** 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で3モードFDドライバの組み込みは完了です。

ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時にパワーマネジメント機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタスクを切り替えることにより正常に動作するようになります。

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。

参照 キーボード→Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列
	USB小型キーボード		109準拠
	USB98配列キーボード		98配列

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは類似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続のキーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windowsを再起動してください。

98… APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

USB98配列キーボードの場合、APMモードからACPIモードへの切り替えを実行すると、キーボードの設定が「106日本語(A01)」に変わってしまいます。切り替え完了後、再設定してください。
設定方法については、「Mate電子マニュアル」を起動して「補足説明」をクリック、または「スタート」ボタン→「プログラム」→「補足説明」をご覧ください。



ミニタワー型をご利用の場合

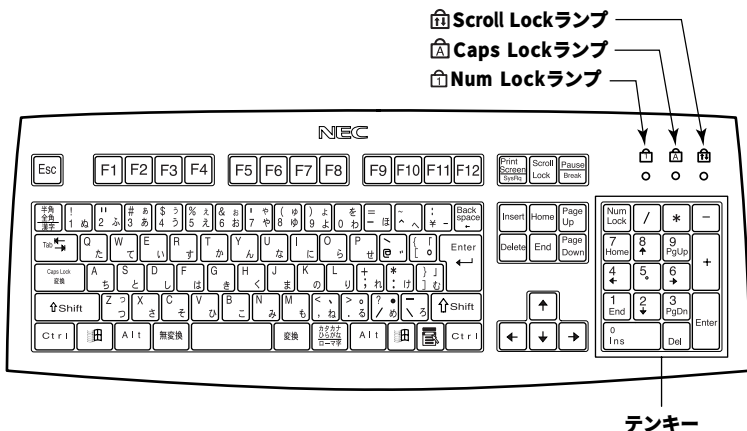
PS/2接続コネクタから電源供給を必要とする周辺機器を使用する場合は、PS/2接続キーボードコネクタに接続してください。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード

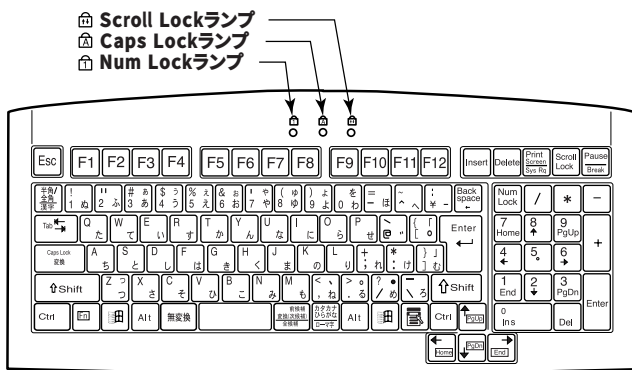
キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。()内はテンキー付きPS/2小型キーボードの場合のキーです。

■ PS/2 109キーボード、USB109キーボードの場合



■テンキー付きPS/2小型キーボードの場合



- | | | | |
|--------------|--|---------------------|--------------|
| Esc | : エスケープキー | Ctrl | : コントロールキー |
| F1 ~ F12 | : ファンクションキー | Windows | : Windowsキー |
| Print Screen | : プリントスクリーンキー | Application | : アプリケーションキー |
| Scroll Lock | : スクロールロックキー | Alt | : オルトキー |
| | 一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.65) | 無変換 | : 無変換キー |
| Pause Break | : ポーズ/ブレイクキー | 変換 (カタカナ/ひらがな/ローマ字) | : 変換キー |
| 半角/全角/漢字 | : 半角/全角/漢字キー | Enter | : エンターキー |
| Tab | : タブキー | Back space | : バックスペースキー |
| Caps Lock 英数 | : キャプスロック/英数キー | Insert | : インサートキー |
| | 【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.65) | Delete | : デリートキー |
| ↑Shift | : シフトキー | Home | : ホームキー |
| | | End | : エンドキー |
| | | Page Up | : ページアップキー |
| | | Page Down | : ページダウンキー |




 : カーソル移動キー (Fn) : Fnキー→[Fn]を押しながら



 : カーソル移動キーを押すと、
 : ニューメリックロックキー [Page Up][Page Down]
一度押すとニューメリック [End][Home]にすることが
ロックし、Num Lockラン できます。
プが点灯します。→「キーを
ロックする」

参照 Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

キーをロックする

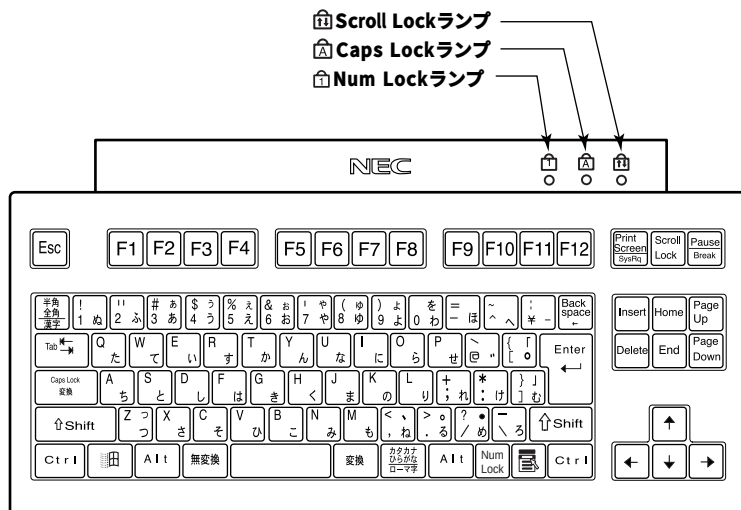
【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、
ロックされていないときでキーの機能が異なります。
それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点
灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

USB小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ **F12** : ファンクションキー

Print Screen : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.65)

Pause Break : ポーズ/ブレイクキー

半角/全角/漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.65)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

Windows : Windowsキー

Application : アプリケーションキー

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー

 : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ニューメリックロックキー

一度押すとニューメリック

ロックし、Num Lockラン

プが点灯します。→「キーを

ロックする」(P.65)

参照 ▶ Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

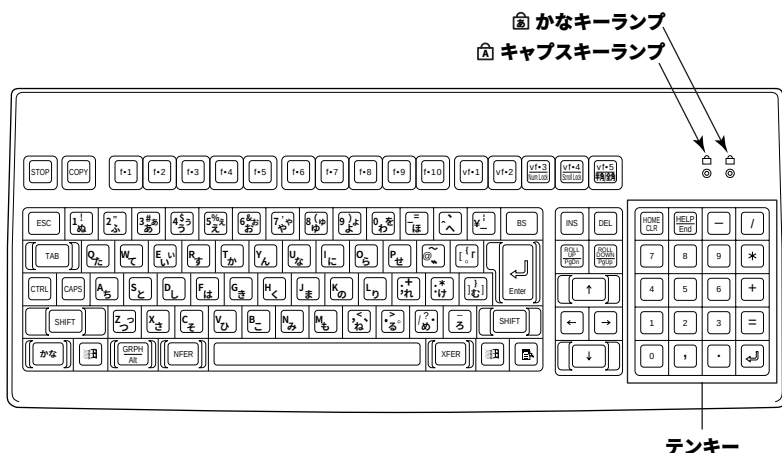
キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.65)をご覧ください。

USB98配列キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



A : キャプスキーランプ
【CAPS】を押すと点灯します。

あ : かなキーランプ
【かな】を押すと点灯します。

CAPS : キャプスキー

かな : かなキー

COPY : コピーキー

f・1 ~ **f・10** **vf・1** ~ **vf・2**

: ファンクションキー

vt・3 Num Lock : Windows Meでは、Num Lockは常にONになっています。DOSモード/DOSプロンプト上またはWindows NTではNum Lockの切り替えが可能です。

vt・4 Scroll Lock : Windows Meではファンクションキーとして動作します。DOSモード/DOSプロンプト上ではScroll Lockとして動作します。

-  : Windows Meではファンクションキーとして動作します。DOSモード/DOSプロンプト上では半角/全角として動作します。
-  : カーソルキー
-  : エンターキー
-  : シフトキー
-  : Windowsキー
-  : アプリケーションキー
-  : バックスペースキー
-  : エクスファーキー
-  : インサートキー
-  : スペースキー
-  : デリートキー
-  : エヌファーキー
-  : ホームクリアキー
-  : グラフキー/オルトキー
-  : ヘルプキー/エンドキー
-  : コントロールキー
-  : ロールアップキー/ページダウンキー
-  : タブキー
-  : ロールダウンキー/ページアップキー
-  : エスケープキー
-  : ストップキー

 **チェック!!** 下記は、使用しているモードによって動作が異なりますので注意してください。

キー入力	Windows	DOSモード/DOSプロンプト
半角カナ入力	可能	不可
テンキー【=】、【,】	可能	不可
【`]または【SHIFT】+【^】	【`]	【`]
【`]または【SHIFT】+【◎】	【`]	【`]
【ろ】	入力なし	【\】
日本語入力切り替え	【CTRL】+【XFER】または【XFER】	【GRPH】+【Vf.5】
【Num Lock】切り替え	不可	可能
【Vf.3】	【Vf.3】	【Num Lock】
【Vf.4】	【Vf.4】	【Scroll Lock】
【Vf.5】	【Vf.5】	【半角/全角】
【CAPS】切り替え	【CAPS】	【SHIFT】+【CAPS】

参照 Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

Me… ■ Windows Meの場合

日本語入力 プログラム	アプリケーション レスモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME2000	○	○	△
ATOK13			○

○：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

△：インストールされている日本語入力プログラム

98… ■ Windows 98の場合

日本語入力 プログラム	アプリケーション レスモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME98	○		△
MS-IME2000		○	
ATOK13			○

○：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

△：インストールされている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

■PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード、USB109キーボード、USB小型キーボードの場合

- ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する

■USB98配列キーボードの場合

- ・ 【CTRL】を押しながら【XFER】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する



チェック!!

NEC 98 Layout Keyboard(XFER)を設定した場合、MS-IME 98、MS-IME 2000で【XFER】で日本語入力をOFFにすることはできません。【XFER】で日本語入力をOFFにできるようにするには、「Microsoft IME 98詳細プロパティ」または「Microsoft IME 2000詳細プロパティ」の「キーの設定」で、【変換】の「入力/変化済み文字なし」の設定を「再変換」から「-」に変更してください。

日本語変換の手順

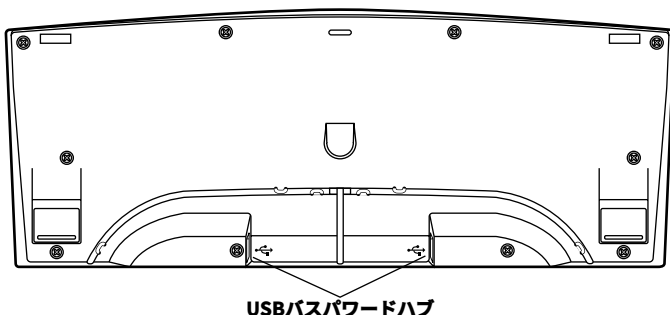
日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEまたはATOK13のヘルプをご覧ください。



日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



電源容量による接続の制限

- ・ USB接続のキーボードのUSBハブは、USBバスパワードハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。



ハイパワーデバイス：接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-UP001 (フルカラーイメージスキャナ)
PK-MC202 (デジタルビデオカメラ)
PK-MC202E (デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス：接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-UP004E、PK-UP008 (バーコードリーダー)

- ・ USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

マウス

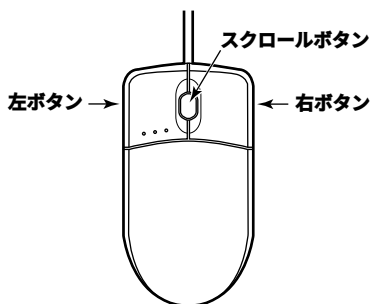
ここでは、マウスの使用方法について説明します。

参照

マウス→Windowsのヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスはスクロールボタン付きマウスです。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。

また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。



チェック!!

スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。



ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使用の用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

参照 ▶ ディスプレイ→Windowsのヘルプ

使用上の注意

- ・ リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れることがあります。
- ・ 使用するディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)の場合は調整不要です。

参照 ▶ 液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

- ・ デジタルインタフェースを持つディスプレイとアナログインタフェースを持つディスプレイを同時に利用することはできません。
- ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM174

PC-KM212

表示能力

本機で表示可能な解像度、表示色、水平走査周波数、垂直走査周波数の関係は次の表の通りです。

省スペース型、デスクトップ型



■液晶ディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14型 デジタル 液晶ディス プレイ (F14T52)	15型 デジタル 液晶ディス プレイ (F15S32) (F15T42)	15.4型 液晶ディス プレイ (F15R42W)	18型 液晶ディス プレイ (F18S1W)
640×480	256色	31.5	60	○※	○※	○	○
	65,536色	37.5	75	×	×	○	○
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60	○※	○※	○	○
	65,536色	46.9	75	×	×	○	○
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60	○※	○※	○	×
	65,536色	60.0	75	×	×	○	○
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	×	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×	○	○
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	×	×
		93.8	75	×	×	×	×
		106.3	85	×	×	×	×

※ デジタル液晶ディスプレイ (F14T52、F15S32、F15T42) の垂直走査周波数の設定は、60Hz固定です。



■CRTディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できる ディスプレイとの対応		
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15型 CRTディ スプレイ (DV15A3)	17型 CRTディ スプレイ (DV17D2)	19型 CRTディ スプレイ (FE90)
640×480	256色	31.5	60	○	○	○
	65,536色	37.5	75	○	○	○
	1,677万色	43.3	85	○	○	○
800×600	256色	37.9	60	○	○	○
	65,536色	46.9	75	○	○	○
	1,677万色	53.7	85	○	○	○
1,024×768	256色	48.4	60	○	○	○
	65,536色	60.0	75	○	○	○
	1,677万色	68.7	85	○	○	○
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×	○
	1,677万色	91.1	85	×	×	○
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	○
		93.8	75	×	×	○
		106.3	85	×	×	×

ミニタワー型



■液晶ディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14型 デジタル液 晶ディスプ レイ (F14T52)	15型 デジタル液 晶ディスプ レイ (F15S32) (F15T42)	15.4型 液晶ディス プレイ (F15R42W)	18型 液晶ディス プレイ (F18S1W)
640×480	256色	31.5	60	○※	○※	○	○
	65,536色	37.5	75	×	×	○	○
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60	○※	○※	○	○
	65,536色	46.9	75	×	×	○	○
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60	○※	○※	○	×
	65,536色	60.0	75	×	×	○	○
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	×	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×	○	○
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×	×	×
	1,677万色	106.3	85	×	×	×	×

※ デジタル液晶ディスプレイ (F14T52、F15S32、F15T42) の垂直走査周波数の設定は、60Hz 固定です。



■CRTディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できる ディスプレイとの対応		
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15型 CRTディ スプレイ (DV15A3)	17型 CRTディ スプレイ (DV17D2)	19型 CRTディ スプレイ (FE90)
640×480	256色	31.5	60	○	○	○
	65,536色	37.5	75	○	○	○
	1,677万色	43.3	85	○	○	○
800×600	256色	37.9	60	○	○	○
	65,536色	46.9	75	○	○	○
	1,677万色	53.7	85	○	○	○
1,024×768	256色	48.4	60	○	○	○
	65,536色	60.0	75	○	○	○
	1,677万色	68.7	85	○	○	○
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×	○
	1,677万色	91.1	85	×	×	○
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	○
	65,536色	93.8	75	×	×	○
	1,677万色	106.3	85	×	×	×

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA (Video Electronics Standards Association) で定義されているディスプレイの省電力モード (DPMS: Display Power Management System) に対応しています。ディスプレイセットモデルをお使いの場合は、ディスプレイの省電力機能が使用できます。工場出荷時の状態では、マウスやキーボードからの入力がない状態が続いた場合、ディスプレイの省電力モードは次のようになります。

本体	Windows Me の場合		Windows 98 の場合
	エネルギースター対応	エネルギースター未対応	エネルギースター未対応
工場出荷時の設定	約 15 分 ※	約 15 分	約 15 分

※ 約 20 分後には休止状態に移行して、ディスプレイの省電力機能が働きます。



チェック!!

省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



VESA では、ディスプレイの電源の状態をオン (電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード (スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンピュータオフ (電源が切れた状態) と定義しています。

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、「表示能力」(P.75) を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

別売のデジタル液晶ディスプレイを使用する場合は、本機に対応した VESA の DFP (Digital Flat Panel) 準拠のデジタルインタフェースを持つデジタル液晶ディスプレイをご利用ください。



本体が、ディスプレイにあわせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。



ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

注 意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- 温度、湿度条件を守ってください。
温度10℃～35℃、湿度20%～80%（ただし結露しないこと）
- ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- 電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- 電源を切るときは、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックして電源を切ってください。正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。
- 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。

また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。

ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。なお、MA66H/Lには添付していません。



『活用ガイド ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」、Windowsのヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」、または「スキップセクタ」といいます。パソコンは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windowsの「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数※が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
20 Gバイト	20,000,000,000バイト以上
30 Gバイト	30,000,000,000バイト以上
60 Gバイト	60,000,000,000バイト以上

※表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。



ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト＝1,000,000バイト、1Gバイト＝1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト＝1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト＝1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。



本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

Me... ドライブ番号

ドライブ番号はモデルによって異なり、3通りあります。

■省スペース型または追加ハードディスクドライブが搭載されていないデスクトップ型およびミニタワー型の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Eドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ



■追加ハードディスクドライブが搭載されているデスクトップ型およびミニタワー型の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ	追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、FAT32)
Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Fドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブ



■NetPCモデルの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)

98… ドライブ番号

ドライブ番号はモデルによって異なり、3通りあります。

■省スペース型または追加ハードディスクドライブが搭載されていないデスクトップ型およびミニタワー型の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブ



■追加ハードディスクドライブが搭載されているデスクトップ型および ミニタワー型の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、FAT32)
Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブ



NetPCモデルの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)



領域を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドについては『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)または『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)の「ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(カスタム再セットアップ)」をご覧ください。

スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダにデータエラーがないかチェックできます。

Windowsが起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」をクリック

- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する
- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見されなかった場合は、「閉じる」ボタンをクリック
エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度「閉じる」ボタンをクリック

Windowsが起動できなかった場合(異常があった場合)

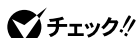
■Windows Meの場合

Windows Meの場合は次の手順を行ってください。

- 1 本体の電源を入れる
- 2 すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows Me起動ディスク」をセットする
「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されます。
- 3 「Start computer with CD-ROM support.」を選択して、
【Enter】を押す
しばらくすると「キーボードのタイプを判定します。」と表示されます。
- 4 【半角/全角】を押す
- 5 コマンドプロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す
- 6 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択して修復する

7 「クラスタスキャンを実行しますか？」のメッセージが表示されたら、矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す

8 【X】を押してスキャンディスクを終了する



チェック!!

定期的にスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)をご覧ください。

■ Windows 98の場合

Windows 98の場合は次の手順を行ってください。

1 本体の電源を入れる

2 「NEC」のロゴが表示されたら、すぐに【Ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す

3 「5.Command prompt only」を選択し、【Enter】を押す

4 コマンドプロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す

5 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択して修復する

6 「クラスタスキャンを実行しますか？」のメッセージが表示されたら、矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す

7 【X】を押してスキャンディスクを終了する

**チェック!!**

定期的にスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

使用上の注意

- ・ フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- ・ フロッピーディスクは、利用するときだけにフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- ・ 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用によりフロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	Windows Me		Windows 98	
		読み書き	フォーマット	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×	×	×
	720KB	○	○	○	○
2HD	1.2MB	○※	×	○	×
	1.44MB	○	○	○	○



チェック!!

Windows Meで1.2MBの媒体を利用する場合(※)、3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。

参照

3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップ→『活用ガイド ソフトウェア編』『他のOSを利用する』『Windows Meを利用する』『フロッピーディスクドライブのセットアップ』(お使いの機種種の項目をご覧ください)



チェック!!

- ・ 1.2MBのフロッピーディスクは、Windowsの「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です。)
- ・ 未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつきっぱなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
- ・ マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピーディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。

参照

フロッピーディスクのフォーマット→Windowsのヘルプ

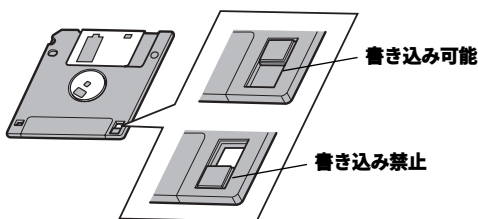
メモ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



スーパーディスクドライブ

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、従来のフロッピーディスクに加えて、120MBの記憶容量を持つスーパーディスクが使用できます。

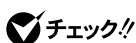
使用上の注意

- ・ スーパーディスクまたはフロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- ・ スーパーディスクまたはフロッピーディスクは、利用するときだけにスーパーディスクドライブに入れてください。スーパーディスクまたはフロッピーディスクをスーパーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- ・ 同じスーパーディスクまたはフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用によりスーパーディスクまたはフロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

使用できるディスク

本機では、2DD、2HDの2種類のフロッピーディスクと、スーパーディスクが使用できます。本機で読み書きおよびフォーマットできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	Windows Me		Windows 98	
		読み書き	フォーマット	読み書き	フォーマット
フロッピーディスク 2DD	640KB	×	×	×	×
	720KB	○	○	○	○
フロッピーディスク 2HD	1.2MB	×	×	○	×
	1.44MB	○	○	○	○
スーパーディスク	120MB	○	○	○	○



- ・ スーパーディスクドライブに1.2Mバイトでフォーマットされたフロッピーディスクをセットして、1.44Mバイトでフォーマットする場合、エラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」の「MS-DOSプロンプト」をクリックし、MS-DOSプロンプトを起動させ、次のように入力してください。

FORMAT A: /F:1.44[ENTER]

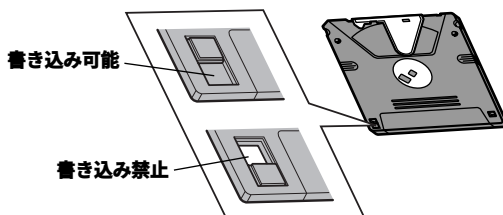
- ・ 1.2Mバイトのフロッピーディスクおよびスーパーディスクは、Windowsの「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)



1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



ディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスク、スーパーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

- ✓ **チェック!!** スーパーディスクをMS-DOSプロンプトからフォーマットする場合は、FORMATコマンドにはオプションを付けしないでください。



容量、フォーマットの種類は必要に応じて設定してください。詳しくは、MS-DOSプロンプトから「FORMAT /?」と入力して表示されるヘルプをご覧ください。

非常時のディスクの取り出し

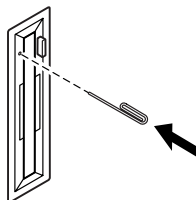
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

- ✓ **チェック!!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

- 1** 細くて丈夫な針金を用意する
ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2** スーパーディスクドライブの非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクが少し飛び出します。



- 3** ディスクを取り出す

CD-ROMドライブ

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音楽用のCDを再生することもできます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量により耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠したCD、または下記の表中のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。

■ CD-ROMのサイズ

本体の型	CD-ROMのサイズ	
	8センチ	12センチ
省スペース型	○※1	○
デスクトップ型	○	○
ミニタワー型	○※2	○

- ※1 省スペース型で8センチCDを利用する場合は、横置きにしてください。
- ※2 ミニタワー型を横置きにして8センチCDを利用する場合は、5インチベイ用内蔵機器の向きを変更してください。詳しくは『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

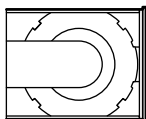
■ CD-ROMの規格

規 格	概 要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-DA (CD-Digital Audio)	一般の音楽CD プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、 既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された、 動画用のCD-ROM
CD Extra (CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-R (CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けて の書き込みも可能
CD-RW (CD-Rewritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM

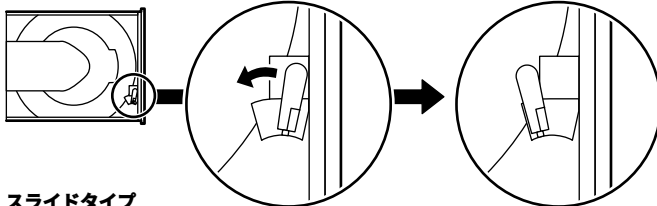
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)

- 1 ディスクトレイジェクトボタンを押す
トレイが出てきます。
- 2 CD-ROMをトレイに置く
文字が書かれている面が見えるように置いてください。
- 3 ディスクトレイのツメを出す
ツメには代表的なものとして、下記のようなタイプなどがあります。

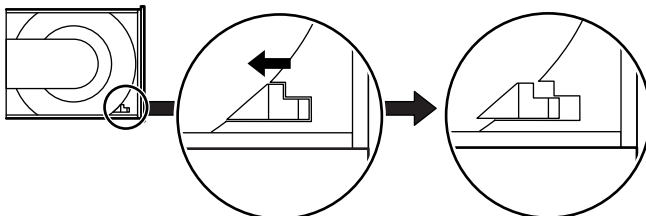
固定タイプ



レバータイプ



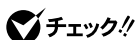
スライドタイプ



- 4 ディスクトレイジェクトボタンを押す
ディスクトレイジェクトボタンは、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。



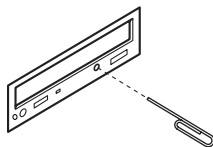
チェック!!

- 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 省スペース型をご利用の場合、筐体カバーを取り外した後で作業を行ってください。筐体カバーの取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

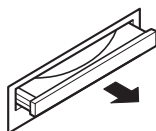
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



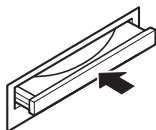
- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む





CD-R/RWドライブ

CD-R/RW(Compact Disc Recordable/Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-RW対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-R/RWドライブでは、ISO9660に準拠したCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。再生できるCDについては、「CD-ROMドライブ」「再生できるCDの種類」(P.94)の表をご覧ください。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。

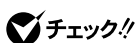
使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。

書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、「Easy CD Creator」および「DirectCD」のヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-R/RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、「Easy CD Creator」または「DirectCD」が必要です。使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「Easy CD Creator」または「DirectCD」をご覧ください。



- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。

非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」「非常時のディスクの取り出し」(P.97)をご覧ください。

サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器などから再生することができます。

参照 ▶ ボリュームコントロールのヘルプ

- ✓ チェック!! MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S、MA10T/M、MA80T/Mをご利用の場合、再生には外付けスピーカが必要です。

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリューム(省スペース型の場合)または「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

- ✓ チェック!!
- ・ メニューバーの「オプション」→「トーン調整」を選択すると「トーン」ボタンがボリュームコントロール画面に追加表示され、それをクリックするとトーン調整画面で調整が行えますが、本機では「そのほかの調整」のみ調整可能です。高音、低音の調整はできません。
 - ・ 本機のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブは、ご購入時はデジタル設定になっています。
次のような場合には、『活用ガイド ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」の「CD-ROMドライブを使っていたら…」 「音がおかしい…」 をご覧の上、デジタル設定をアナログ設定に変更してください。
 - ・ CD-ROMドライブのヘッドホン端子から音楽CDを聞く場合
 - ・ ダイレクトサウンドを使用するアプリケーションを利用中に音が飛ぶ場合
 - ・ 録音方法をデジタル設定からアナログ設定に変更する場合

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

参照

「PART5 付録」「機能一覧」(P.220)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。



チェック!!

本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

LANの設定(Windows Meの場合)

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については次の通りです。Windows Meの「ヘルプとサポート」の中にあるオンライン形式の「Windows Millennium Editionを使う」の中にある「Windows Meスタートガイド」のネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「ネットワーク」をダブルクリック
- 4 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 5 必要な機能を追加する

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「ネットワーク」をダブルクリック
- 4 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 5 共有サービスを追加する
- 6 「識別情報」タブをクリック
- 7 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力する

8 「OK」ボタンをクリック



チェック!!

設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

LANの設定(Windows 98の場合)

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については次の通りです。『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』、またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加する

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加する
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力する

7 「OK」ボタンをクリック



チェック!!

設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

ネットワークパスワードの変更について(Windows Meの場合)

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

■「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 7 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワードの変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの選択」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「変更」ボタンをクリック
- 6 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 7 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック

- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

ネットワークパスワードの変更について(Windows 98の場合)

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

■「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

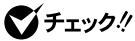
リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については、次の表の通りです。なお、MA66H/Lをご利用の場合、別売のDMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

LANボードによる電源の自動操作/本機		省スペース型	デスクトップ型	ミニタワー型
リモート パワーオン	電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)	○	×	×
	スタンバイ(サスペンド)状態から復帰(レジューム)する	○	○	○
	休止状態から復帰する	○	○	○

電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

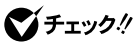
電源が切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、本設定は省スペース型のみ有効です。



チェック!!

デスクトップ型およびミニタワー型では、電源が切れている状態からリモートパワーオン機能で電源を入れることはできません。

- 1 コンピュータの電源を入れる
- 2 NECのロゴ画面が表示されたら、【F2】を押す
- 3 メニューバーの「Boot」→「On PME」を「Power On」に設定する
- 4 【F10】を押す
- 5 「Yes」を選択し、【Enter】を押す



チェック!!

必要に応じて、「Network Boot Setting」(P.148)の設定も行ってください。
以上で完了です。

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1** Windows Meを起動する
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3** 「システム」をダブルクリック
- 4** 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 5** 以下のアダプタを選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
 - ・「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉
 - ・「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」
- 6** 「電源の管理」タブをクリック
- 7** 「節電のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックボックスをオンにする

- 8 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「OK」ボタンをクリック
- 11 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 12 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から以下のアダプタを選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
 - ・ 「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」
〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉
 - ・ 「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」
- 13 「詳細設定」タブをクリックし、以下の設定を行う

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
 - ・ 「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「No Action」に設定する
〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉
 - ・ 「プロパティ」の一覧から「PME Enable」を選択し、「値」を「Enable」に設定する
 - ・ 「プロパティ」の一覧から「Wakeup Frame」を選択し、「値」を「Disable」に設定する
 - ・ 「プロパティ」の一覧から「Link-up Wakeup」を選択し、「値」を「Disable」に設定する
- 14 「OK」ボタンをクリック

15 「OK」ボタンをクリック

16 Windows Meを再起動する

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については、次の表の通りです。なお、MA66H/Lをご利用の場合、別売のDMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

LANボードによる電源の自動操作/本機		省スペース型	デスクトップ型	ミニタワー型
リモート パワーオン	電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)	○※	○※	○※
	スタンバイ状態から復帰する	○	○	○

※ACPIモードでは、電源の切れている状態からリモートパワーオンで電源を入れることはできません。

■Windows 98 APMモードの場合

電源が切れている状態およびスタンバイ状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

1 コンピュータの電源を入れる

2 NECのロゴ画面が表示されたら、【F2】を押す

3 以下の設定を行う

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/Lの場合〉

- ・メニューバーの「Boot」→「On PME」を「Power On」に設定する

〈MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉

- ・メニューバーの「Power Management Setup」→「Resume By PME From Soft Off」を「Enabled」に設定する

〈MA10T/M、MA80T/Mの場合〉

- ・メニューバーの「Power」→「Resume On PME」を「On」に設定する

4 【F10】を押す

5 「Yes」を選択し、【Enter】を押す



チェック!!

必要に応じて、「Network Boot Setting」(P.148)の設定も行ってください。

6 Windows 98を起動する

7 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

8 「ネットワーク」をダブルクリック

9 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から以下のアダプタを選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉

・「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」

〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉

・「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」

10 「詳細設定」タブをクリックし、以下の設定を行う

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉

・「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「Enabled」に設定する

〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉

・「プロパティ」の一覧から「PME Enable」を選択し、「値」を「Enable」に設定する

11 「OK」ボタンをクリック

12 「OK」ボタンをクリック

13 Windows 98を再起動する

以上で完了です。

■ Windows 98 ACPIモードの場合

スタンバイ状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1** Windows 98を起動する
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3** 「システム」をダブルクリック
- 4** 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 5** 以下のアダプタを選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉
 - ・「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉
 - ・「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」
- 6** 「電源の管理」タブをクリック
- 7** 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックボックスをオンにする
- 8** 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
- 9** 「OK」ボタンをクリック
- 10** 「OK」ボタンをクリック
- 11** 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック

12 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から以下のアダプタを選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉

- ・「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」

〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉

- ・「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」

13 「詳細設定」タブをクリックし、以下の設定を行う

〈MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA10T/M、MA80T/Mの場合〉

- ・「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「No Action」に設定する

〈MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合〉

- ・「プロパティ」の一覧から「PME Enable」を選択し、「値」を「Enable」に設定する
- ・「プロパティ」の一覧から「Wakeup Frame」を選択し、「値」を「Disable」に設定する
- ・「プロパティ」の一覧から「Link-up Wakeup」を選択し、「値」を「Disable」に設定する

14 「OK」ボタンをクリック

15 「OK」ボタンをクリック

16 Windows 98を再起動する

以上で完了です。

FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX通信機能、データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。ATコマンドについては、『[ATコマンド](#)』([ここをクリック](#))をご覧ください。

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ ハイパーターミナル

その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX通信機能

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。

また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56,000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。

K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます)、総合デジタル通信網(ISDN)、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

→「[技術基準等適合認定について](#)」(P.7)

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。

FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- ・ 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話機などは2線式の回線用のみです。電話機などの種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、接続する電話機などによっては、FAXモデムボードが正常に通信できない場合があります。正常に通信できない場合は、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。
 - ・ 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ。
 - ・ 電話機などに別の電話を接続するためのコネクタがある場合は、接続の順番を変える（加入電話回線＝電話機＝本機のようにする）。接続については、電話機などのマニュアルをご確認ください。
 - ・ モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。
- ・ 次のような接続を行っている場合は、モデムによる通信の前に電話機などを使用していないことを確認してください。
 - ・ FAXモデムボードの電話機用モジュラーコネクタに電話機などを接続している場合
 - ・ 市販の分岐コネクタを使用して電話機などと本機とを加入電話回線に接続している場合
 - ・ パソコン本体と電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機など（コードレスホン、親子電話）が離れている場合

また、モデムで通信中は電話機などを操作しないようにしてください。電話機などを操作すると、通信が妨害され、切断されることがあります。

- 電話機用モジュラーコネクタには、他のモデムを接続しないでください。他の外付けモデムなどが、電話機用モジュラーコネクタに接続されている場合は取り外してください。
- FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号にあわせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者(NTTなど)に確認してください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)(工場出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- 通信中は、電話機用モジュラーコネクタに接続した電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、受話器から通信中の音が聞こえ、通信が中断されることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9,600bps以下にしてください。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- 回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。

COMポートの設定について

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのモデムのポート番号は、工場出荷時の状態ではWindows Meの場合はCOM3、Windows 98の場合はCOM2が割り当てられています。通常はこのままご使用ください。COMポート番号とI/Oの範囲は次の通りです。

COM1の場合 : 03F8~03FF

COM2の場合 : 02F8~02FF

COM3の場合 : 03E8~03EF

COM4の場合 : 02E8~02EF



Mateセキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ/マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。(I/Oロック)
- ・ メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させないようにする。(筐体ロック)
- ・ システム管理者向けと一般ユーザー向けの利用環境を設定し、使用できる機能を制限する。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)
- ・ ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)、ソフトウェア構成情報を管理する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions))
- ・ ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザーやシステム管理者に通知する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions))

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

BIOS LOCK

BIOSレベルで本機の使用者を限定し、本機の起動を制限します。これにより、コンピュータウイルスやデータ改ざんなどからパソコンを守ります。

参照

「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」の「Security の設定」(P.146)、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」の「Security Setupの設定」(P.189)

BIOS LOCKには、次の方法があります。

■指紋認証を利用する

別売の指紋認証ユニット(シリアル)(PK-FP002)を利用することで、本体の起動時やパスワードの入力を要求されるような場合、かわりに指紋を照合することで、ユーザーの不正使用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。なお、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/SではBIOSレベルでの認証(BIOS LOCK)はできません。

参照

指紋認証ユニット(シリアル)(PK-FP002)に添付のマニュアル

98… ■スマートカードを利用する

以下の別売のオプションを利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけでWindowsのログイン、スクリーンセーバのロック解除の際の個人認証をすることができます。なお、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/SではBIOSレベルでの認証(BIOS LOCK)はできません。

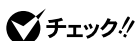
- ・ スマートカードリーダ/ライタ(シリアル)(PK-SM001)
- ・ スマートカードアプリケーション(管理者)(PK-SM005)
- ・ スマートカードアプリケーション(ユーザ)(PK-SM006)
- ・ スマートカード(PK-SM003)

参照

スマートカードアプリケーション(管理者)(PK-SM005)に添付のマニュアル

パスワードの設定

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。



チェック!!

下記の状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」にしなければなりません。

- ・ スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Password On Boot」が「Enabled」に設定されている場合
- ・ 本機に指紋認証ユニットが接続され、指紋認証ユニットのBIOS LOCKが設定されている場合
- ・ 本機にスマートカードリーダが接続され、スマートカードのBIOS LOCKが設定されている場合

98… ファイル暗号化

PGP(PGP Personal Privacy)は、ファイルやフォルダをパスワード付きで暗号化し、データの漏洩防止やプライバシーを保護します。また、Windowsのログオン/ログオフ時にファイルやフォルダを暗号化/復号化したり、暗号化したファイルを電子メールなどで相手に送信したときもパスワードを入力するだけで復号化できます。



参照

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「PGP」

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポートなど)を利用できないようにする機能です。

この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを防止することができます。



参照

「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Securityの設定」の「I/Oロック」(P.150)、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」 「Peripheral Setupの設定」(P.184)



ハードディスクパスワード機能

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することにより、本機以外のパーソナルコンピュータでハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。省スペース型およびミニタワー型の場合に利用できます。



ハードディスクパスワードの設定→「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Securityの設定」(P.146)

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。



『活用ガイド ソフトウェア編』 「アプリケーションの概要と削除/追加」の「VirusScan for Windows Me」、 「VirusScan for Windows 98」

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売のCyberAccess Ver3.0(11月発売予定)により、管理者PCから一括して設定、変更することができます。



『活用ガイド ソフトウェア編』 「アプリケーションの概要と削除/追加」の「CyberAccess」

筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体のハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止に役立てることができます。また、市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することで、本体の開閉や盗難防止にも役立てることができます。



■ MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C、MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/M、MA80T/Mの場合

省スペース型およびミニタワー型をご利用の場合、筐体ロックはキーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しており、別途購入していただく必要があります。入手方法については、次の国内総販売代理店にお問い合わせください。

日本ポラデジタル株式会社 第3営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-5-2はごろもビル5F

TEL : 03-3537-1070 FAX : 03-3537-1071



■ MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sの場合

デスクトップ型をご利用の場合、セキュリティプレートを取り付けることで本体カバーをロックすることができます。セキュリティプレートの取り付けについては『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

ルーフカバーオープン検知

カバーセンサにより、ルーフカバーの開閉を検知します。開閉が検知された場合は、Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)により通知されます。メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザパスワード・ユーザパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査してください。MA66H/Lではご利用になれません。



『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」
「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」
「Advancedの設定」(P.137)または「Securityの設定」(P.146)、
「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」
「Hardware Monitor Setupの設定」(P.187)



ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。省スペース型およびミニタワー型の場合に利用できます。



『ハードウェア拡張ガイド』

マネジメント機能

ハードウェアモニタ

ハードウェア(筐体内温度、電源・ファン)の状態を監視して異常が発生した場合、アラームで利用者に知らせます。MA66H/Lではご利用になれません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」

ハードディスクドライブ障害時のバックアップ機能

ハードディスクドライブの異常を監視します(SMART機能)。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup/F」との連携によってバックアップをとることができます。MA66H/Lではご利用になれません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「Masty Data Backup」

98… ソフトウェアパワーOFF機能

Windows動作中に誤って電源スイッチに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

参照

「電源(Windows 98の場合)」(P.47)

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはIntel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)からのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信する管理パソコンに別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)が必要です。パワーオンメッセージを受信するパソコンにはリモートパワーオンの設定が必要です。MA66H/Lで利用する場合は、別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」

リモートパワーオンの設定→「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」「Bootの設定」(P.159)および「Securityの設定」(P.146)、
「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」「Power Management Setupの設定」(P.175)および「Security Setupの設定」(P.189)

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)」(P.108)または「リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)」(P.113)

チェック!!

- ・ 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。
- ・ デスクトップ型およびミニタワー型でWindows Meの場合、電源が切れている状態からリモートパワーオン機能で電源を入れることはできません。省スペース型のみ可能です。
- ・ Windows 98のACPIモードではリモートパワーオン機能で電源を入れることはできません。APMモードでのみ可能です。ただし、スタンバイ状態からの復帰についてはACPIモードでも可能です。

リモートコントロール

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「pcAnywhere 9.2 EX」

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作（※）を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに別売のDMITOO Ver 8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)、またはpcAnywhere (Symantec社製)が必要です。MA66H/Lで利用する場合は、別売のDMITOO Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

なお、商品の最新情報は、インターネットの次のホームページで提供しています。

<http://121ware.com/>

※アプリケーションによっては、できないものがあります。

ネットワークブート

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上により、OSのセットアップ、BIOSフラッシュ (BIOS ROMの書き換え)、BIOS設定変更の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。MA66H/Lではご利用になれません。

参照

「PART2 システム設定 (省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Advancedの設定」 (P.137)

一括ファイル配信

管理者PCからリモート操作で、複数のクライアントPCに対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。管理者PCには別売のESMPRO/DeliveryManager、クライアントPCには別売のESMPRO/DeliveryManagerクライアントが必要です。

クライアントモニタリング

Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGER Ver3.0などを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。
MA66H/Lで利用する場合は、別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」

■ 資源管理

本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

■ 状態監視

筐体内温度、電圧、CPUファン監視機能から障害監視機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

OFF state Alert II機能

本機の電源が切れている状態での筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜け等の異常を検出し、LANで接続された管理者側パソコンに通知します。また、オペレーティングシステムがハングアップした場合、LANで接続された管理者側パソコンに通知し、管理者側パソコンからリモートで電源を切ったり、再起動させることができます。なお、この機能を使用する場合、管理者側パソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.2以上またはDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)をインストールする必要があります。

MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sではご利用になれません。なお、商品の最新情報は、インターネットの次のホームページで提供しています。

<http://121ware.com/>

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」

システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

デスクトップ型をご利用の場合は、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」(P.163)をご覧ください。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	130
Mainの設定	133
Advancedの設定	137
Securityの設定	146
Powerの設定	152
Bootの設定	159

BIOSセッアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセッアップメニューが内蔵されています。

BIOSセッアップメニューの起動と初期画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press <F2> to Enter BIOS Setup,<F12> to Network Boot.」(*)と表示されたら、[F2]を押す
以下の画面が表示されます。

※メニューを日本語に設定した場合は、「<F2>:BIOSセッアップメニューを起動します、<F12>:ネットワークブートします。」と表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
System Time :		[hh:mm:ss]			Item Specific Help <Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field
System Date :		[mm/dd/yyyy]			
Language :		[English (US)]			
Legacy DisketteA :		[1.44/1.25 MB 3.5"]			
Legacy DisketteB :		[Disabled]			
▶ Primary Master :		[×××××MB]			
▶ Primary Slave :		[None]			
▶ Secondary Master :		[CD-ROM]			
▶ Secondary Slave :		[None]			
▶ Keyboard Features					
Boot-time Diagnostic Screen		[Disabled]			
System Memory		640KB			
Extended Memory		××KB			
BIOS Revision		××××××××			
F1 Help	↑ ↓ Select Item	-/+ Change Values			F9 Step Defaults
Esc Exit	← → Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu			F10 Save and Exit

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー



BIOSセッアップメニューの基本操作

- ・【↑】【↓】【←】【→】で設定項目および設定項目内を選択します。
- ・「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は[Tab]で行います。
- ・【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選 択 項 目	説 明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	省スペース型の場合、すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。ミタワ型の場合、すべての選択項目をデフォルト値に戻します。なお、ここでの「デフォルト値」は工場出荷時の設定値ではありません。(【F9】を押す方法と同じ)
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

⚠ デフォルト値を読み込むときの注意

ミタワ型の場合、「デフォルト値」は工場出荷時の設定値ではありません。工場出荷時の設定値に戻すには、デフォルト値を読み込んだ後、ご使用のモデルにあわせて設定を変更する必要があります。必ず、次の「工場出荷時の設定値に戻す」に進み、手順に従ってください。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。



■ 省スペース型の場合

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「Press <F2> to Enter BIOS Setup, <F12> to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
工場出荷時の設定値を読み込みます。

5 **【F10】を押す**
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

6 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。



■ミニタワー型の場合

1 **電源を入れる**

2 「NEC」ロゴの画面で、「Press <F2> to Enter BIOS Setup, <F12> to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。

3 **【F9】を押す**
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

4 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**
デフォルト値を読み込みます。

5 **メニューバーの「Advanced」→「Plug & Play O/S」を「Yes」に設定する**

6 **メニューバーの「Advanced」→「I/O Device Configuration」→「Serial port A」を「Enabled」、「Serial port B」を「Disabled」、「Parallel port」を「Enabled」、「Parallel port」→「Mode」を「Bi-directional」に設定する**

7 **メニューバーの「Power」→「Power Savings」を「Customized」に設定する**

8 **【F10】を押す**

9 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

●System Time(☆)

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

●System Date(☆)

日付を「月/日/年」で入力します。

●Language(☆)

BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」に設定されています。

●Legacy Diskette A

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。

省スペース型でスーパーディスクドライブが搭載されているモデルは「Disabled」に設定されています。フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルおよびNetPCモデルは「1.44/1.25MB 3 1/2」に設定されています。

「Disabled」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容
Legacy Diskette A	Disabled
	360 Kb 5 1/4"
	1.2 MB 5 1/4"
	720 Kb 3 1/2"
	1.44/1.25 MB 3 1/2"
	2.88 MB 3 1/2"

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

● Legacy Diskette B

「Legacy Diskette A」の設定と同じです。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。本項目が表示されない機種もあります。

● Primary Master

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面となります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。



● Primary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。3.5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。追加ハードディスクドライブが搭載されたモデルでは、追加ハードディスクドライブの設定画面になります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

● Secondary Master

プライマリマスタの設定と同様です。工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの設定画面となります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。



● Secondary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。



● SMART Device Monitoring

ハードディスクドライブに対してSMART機能を設定します。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。本項目はミニタワー型の場合に表示されます。

● Keyboard Features

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルをあわせ[Enter]を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
NumLock	Auto / On/Off	起動時にNum lockを有効にするかを設定します。
Key Click	Disabled / Enabled	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
Keyboard auto-repeat rate	30/sec、26.7/sec、21.8/sec、18.5/sec、13.3/sec、10/sec、6/sec、2/sec	キーリピート間隔を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4 sec、1/2 sec、3/4 sec、1sec	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
Legacy USB Support	Enabled / Disabled	USBレガシー機能を設定します。Windows MeおよびWindows 98の場合は、「Enabled」に設定してください。Windows 2000の場合は「Enabled」、Windows NTでPS/2接続のキーボードの場合は「Disabled」、USB接続のキーボードの場合は「Enabled」に設定してください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

● Boot-time Diagnostic Screen

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Enabled」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。



チェック!!

エラーメッセージが表示された場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決Q&A』をご覧ください。

- **System Memory**

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

- **Extended Memory**

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

- **BIOS Revision**

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。



- **Processor Serial Number**



- **CPU Serial Number(☆)**

「Processor Serial Number」機能を設定します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Advancedの設定

Advancedの設定

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。ミタワ型をユーザパスワードで起動した場合、「Advancedの設定」が選択できなくなります。

● Plug & Play O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は「Yes」に設定されています。Windows NTをご利用の場合は「No」に設定してください。

● Reset Configuration Data

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

● PCI Configuration

各PCIデバイスの割り込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 1 で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 2 で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 3 で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 4	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 4 で使用するIRQ番号を設定します。

※網かけの部分 **Auto Select** は、工場出荷時の設定値です。

PCI Configurationの設定項目とPCIスロットは、次のように対応しています。

設定項目	省スペース型	ミニタワー型
PCI IRQ line 1	LANボードまたはFAXモデムボード専用スロット※	PCIスロット#4
PCI IRQ line 2	PCIスロット#1	PCIスロット#1、 PCIスロット#5
PCI IRQ line 3	PCIスロット#2	PCIスロット#2
PCI IRQ line 4	—	PCIスロット#3

※NetPCの場合は、LANボードのみ



● CPU Level1 Cache

本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。



● CPU Level2 Cache

本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。



● CPU Level2 Cache ECC Check

本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

● Cache Memory



チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

● I/O Device Configuration

入出力機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ[Enter]を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Serial port A (シリアルコネクタまたはシリアルコネクタ1)	Disabled	シリアルポートAが使用できなくなり(I/Oロック)、割り込みが開放されます。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込みが設定できます。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込みを自動的に設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Base I/O Address	3F8 / 2F8 / 3E8 / 2E8	I/Oベースアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ3 / IRQ4	割り込み番号を設定します。
Serial port B (シリアルコネクタ2)	「Serial port A」と同様です。	工場出荷時は、「Disabled」です。省スペース型の場合は表示されません。
Mode	Normal / IR	シリアルポートBのモードを設定します。
Parallel port (パラレルコネクタ)	Disabled	パラレルポートが使用できなくなり(I/Oロック)、割り込みが開放されます。
	Enabled	パラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割り込み番号を設定できます。
	Auto	自動的にパラレルポートを設定します。
Mode	Output only / Bi-directional / EPP/ECP	モードを設定します。ミタワ型のみ「EPP」が表示されます。ご利用のプリントのモードについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
DMA Channel	DMA 1 / DMA 3	パラレルポートがECPモードのときに使用するDMAチャンネルを設定します。「Mode」で「ECP」を選択した場合に表示されます。
Base I/O Address	378 / 278 / 3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ5 / IRQ7	パラレルポートに割り込み番号を設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Disk Controller	Disabled/ Enabled /Auto	フロッピーディスクコントローラの使用を設定します。工場出荷時は、フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合は「Enabled」、省スペース型のスーパーディスクドライブが搭載されているモデルおよびNetPCモデルの場合は「Disabled」です。「Disabled」ではフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります(I/Oロック)。
Base I/O Address	Primary /Secondary	フロッピーディスクコントローラのI/Oベースアドレスを設定します。省スペース型の場合に表示されます。
Game Port & Midi (MIDI/Joystic コネクタ)	Disabled	Midiポートが使用できなくなり、割り込みが開放されます。本項目はミニタワー型の場合に表示されますが、変更しないでください。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込みが設定できます。本項目はミニタワー型の場合に表示されますが、変更しないでください。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込みを自動的に設定します。本項目はミニタワー型の場合に表示されますが、変更しないでください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Base I/O Address	200 / 208 / 210 / 218	MidiポートのI/Oベースアドレスを設定します。本項目はミタワ型の場合に表示されますが、変更しないでください。
Base I/O Address/IRQ	300 IRQ_5 / 310 IRQ_10 / 320 IRQ_5 / 330 IRQ_10	Midiポートの割り込みを設定します。本項目はミタワ型の場合に表示されますが、変更しないでください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

参照 I/O ロック→「Securityの設定」(P.150)

●Large Disk Access Mode

✓チェック! 本項目の設定は変更しないでください。

●Local Bus IDE adapter

内蔵用のIDEアダプタを使用するかを設定します。工場出荷時は「Both」に設定されています。「Primary」ではセカンダリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Secondary」ではプライマリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Disabled」ではすべてのIDEデバイスが使用できなくなります(I/Oロック)。



●Advanced Chipset Control

本項目はミタワ型の場合に表示されます。本項目は日本語に設定した場合も英語で表示されます。

✓チェック! 本項目の設定は変更しないでください。

●QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。



● Sound

サウンドのリソースを設定します。本項目は、省スペース型の場合に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Sound	Disabled	サウンドを切り離します。
	Enabled	サウンドが使用できます。

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



● AC97 Audio

内蔵サウンドの使用を設定します。工場出荷時は「Enabled」です。本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



● AC97 Modem

本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

● DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
View DMI Event Log	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No / Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Enabled / Disabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
ECC Event Logging	Disabled / Enabled	「Enabled」ではメモリエラーのDMIイベントログを記録します。ミニタワー型の場合に表示されます。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。



●LANDesk(R)Service(☆)

本体BIOSに標準搭載しているLANDeskService機能の設定を行います。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。本項目は、MA10T/C、MA86T/C、MA80T/Cの場合に表示されます。



チェック!!

LANDesk(R)Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManagerが必要です。



参照

ネットワークブート→「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)

●Preboot Management(☆)

Preboot Management機能の設定を行います。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。



●Default Primary Video Adapter

プライマリのグラフィックカードの設定をします。「AGP」では本体内蔵のグラフィックカードを、「PCI」ではPCIスロットに挿入された別売のグラフィックカードを優先して使用します。工場出荷時は「AGP」です。本項目はミタワ型の場合に表示されます。



● Hardware Monitor Control

本機の状態監視を設定します。この項目にカーソルをあわせ[Enter]を押すとサブメニューの設定画面となります。本項目はミニタワー型の場合に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
System Temperature	(設定項目はありません)	筐体内の温度を表示します。
CPU Temperature		CPUの温度を表示します。
CPU Fan Speed		スピードは表示されません。
Power Fan Speed		
System Fan Speed		
VCore Voltage		CPUのコア電圧を表示します。
Vtt1.5 Voltage		ホストバスの駆動電圧を表示します。
+3.3V Voltage		システムの駆動電圧を表示します。
+5.0V Voltage		
+12V Voltage		
+5Vsb Voltage		サブ駆動電圧を表示します。
Battery Voltage		バッテリーの電圧を表示します。
Chassis Intrusion	Disabled/ Enabled	筐体の開閉監視を設定します (ルーフカバーオープン検知)。 なお、メッセージを解除する場合は、 「Reset Chassis Intrusion」を 「Yes」にして再起動してください。
Reset Chassis Intrusion	No / Yes	筐体の開閉監視の初期化を設定 します。「Yes」で初期化します。 再起動時には「No」に設定されます。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



チェック!!

メモリやハードディスクドライブ、PCIボードなどの内蔵機器を取り付ける目的などで、本体のレフトカバーを取り外した場合、次回から起動するごとに、NECロゴ画面の後に、「The system chassis has been opened.」、または「本体カバーが開かれました。」のメッセージが表示されます。

これは、本装置のルーフカバーオープン検知機能により、レフトカバーが取り外されたことを警告するものです。この場合は、メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザパスワード・ユーザパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査した後、問題がないようでしたら下記の手順により警告を解除してください。次回起動時より、メッセージは表示されなくなります。

- ①起動時、NECロゴの画面で、「Press <F2> to Enter BIOS Setup, <F12> to Network Boot.」と表示されたら、[F2]を押す
BIOSセットアップメニューが起動します。
- ②メニューバーの「Advanced」→「Hardware Monitor Control」の「Reset chassis intrusion」を「Yes」に設定する
- ③[F10]を押す
- ④「Yes」を選択し、[Enter]を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

本機能を使用しない場合は、メニューバーの「Advanced」→「Hardware Monitor Control」の「Chassis intrusion」を「Disabled」に設定してください。

次回起動時から、本機能は無効になります。

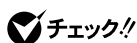
また、Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions) をご使用の場合、カバーが取り外されたことが通知されますが、「資産管理」のクリアボタンを押しても通知を解除することはできません。通知のクリアは上記の手順で解除してください。

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。



チェック!!

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード、BIOS LOCK、ハードディスクパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および『ハードウェア拡張ガイド』『PART5 付録』の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておくことをおすすめします。

● Supervisor Password Is

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。工場出荷時は「Clear」です。

設定項目	設定内容	説明
Supervisor Password Is	(設定項目はありません)	「Set」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されています。 「Clear」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されていません。

● Set Supervisor Password

スーパーバイザパスワードを設定します。

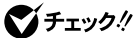
設定項目	設定内容	説明
Set Supervisor Password	(パスワードを設定します)	項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとスーパーバイザパスワードの設定画面になります。

● User Password Is

スーパーバイザパスワードと同じ表示です。

● Set User Password (☆)

スーパーバイザパスワードと同じ設定です。



チェック!!

ご購入元、NECに本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

参照

NECの問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

メモ

スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

● Security Mode

セキュリティモードを選択します。「Password」と「SmartCard」と「FingerPrint」が選択できます。工場出荷時は「Password」です。

- ・「Password」 …… スーパーバイザ/ユーザパスワード設定時に設定します。
- ・「SmartCard」 …… スマートカード使用時に設定します。
- ・「FingerPrint」 …… 指紋認証ユニット使用時に設定します。

● Password On Boot

起動時にパスワード入力を行うかの設定をします。「Security Mode」が「Password」の場合に表示されます。リモートパワーオン機能を利用するときは、「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」に設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

● Fixed disk boot sector

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。

●Diskette Access

下記の設定の後、「Supervisor」に設定するとスーパバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。工場出荷時は「Supervisor」です。

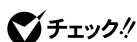
- ・ スーパバイザ/ユーザパスワードを設定
- ・ 「Password On Boot」を「Enabled」に設定

●Network Boot Setting

この項目にカーソルをあわせ、[Enter]を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説 明
Keyboard/ Mouse Lock	Disabled/ Enabled	「Enabled」を選択すると、リモート起動時（OSが起動されるまで）にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Password On Boot」で「SmartCard」または「FingerPrint」が設定されていてもリモート起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合、スマートカードリーダまたは指紋認証ユニットを接続した場合に表示されます。

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



チェック!!

ここでのリモート起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指します。

参照

リモートパワーオン機能→「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)

●Virus check reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

● System backup reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。



● Cover Open Check

「Enabled」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります。なお、メッセージを解除する場合は、「Disabled」に設定して再起動してください。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。本項目は、省スペース型の場合に表示されます。



● Assign HDD Password

ハードディスクドライブ(プライマリマスタ、プライマリスレーブ)にパスワードを設定します。ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)とハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)の2つがあります。【Enter】を押すとハードディスクマスタパスワードの設定画面が表示され、ハードディスクマスタパスワードを設定すると、ハードディスクユーザパスワードの設定画面が表示されます。次にプライマリマスタまたはプライマリスレーブの設定を【+】【-】で行います。なお、プライマリマスタまたはプライマリスレーブの設定を変更されないよう、スーパーバイザパスワードを設定してください。



チェック!!

ご購入元、NECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしてください。



参照 NECの問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

・ ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)

ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「ハードディスクパスワードの場合」(P.151)をご覧ください。

・ ハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)

ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することにより、本機以外でハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

**チェック!!**

ハードディスクマスタパスワードを設定していないとハードディスクユーザパスワードを設定することはできません。

⚠ 注意

設定したパスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意して下さい。

設定項目	設定内容	説明
Primary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	ハードディスクドライブ（プライマリマスタ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。
Primary Slave HDD Password	Enabled/ Disabled	追加ハードディスクドライブ（プライマリスレーブ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。追加ハードディスクドライブを搭載したミニタワー型の場合に表示されます。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

本機（プライマリマスタにインストールされたWindows）を起動する場合、「Primary Master HDD Password」を「Enabled」にしても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを入力する必要はありません。

メモ

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする（ロックする）機能です。BIOSセットアップメニューのI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブA、シリアルポートA、シリアルポートB、パラレルポート、MIDIポートです。

パスワードの解除

■ スーパーバイザ/ユーザパスワードおよびハードディスクマスターパスワードの場合

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定により制限したり、本機以外のパーソナルコンピュータでのハードディスクドライブの不正使用をハードディスクパスワードで防止しています。パスワードを入れて【Enter】を押すと解除されます。もし、スーパーバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』『PART5 付録』の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。



チェック!!

無断でパスワードを解除することを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.123)

■ ハードディスクパスワードの場合

次の手順でハードディスクドライブのパスワードをすべて解除してください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する

参照

「PART2 システム設定」の「BIOSセットアップメニューについて」(P.130)

2 「Security」を選ぶ

3 「Assign HDD Password」を選んで、【Enter】を押す ハードディスクパスワードの入力画面が表示されます。

4 ハードディスクマスターパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

6 【Enter】を押す セットアップ通知画面が表示されますので、BIOSセットアップメニューの変更を保存して終了してください。

以上でハードディスクドライブのパスワードがすべて解除されます。

Powerの設定

Powerの設定(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合)

Windows MeおよびWindows 98をACPIモードに変更した場合の本機の省電力管理設定を行います。

表示が異なるところは、省スペース型、ミニタワー型の順に記述してあります。

ミニタワー型をユーザパスワードで起動した場合、「Powerの設定」の項目は設定できなくなります。

「Power Savings」、「Standby Timeout」、「Auto Suspend Timeout」、「Hard Disk Timeout」、「System Switch」、「Power Button Behavior」の設定は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「電源の管理」で行ってください。

参照 「電源の管理」の設定→Windowsのヘルプ

- ✓チェック!! 「System Switch」、「Power Button Behavior」の設定は無効になり、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「電源の管理」の「詳細設定」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になります。Windows Meの工場出荷時およびWindows 98のACPIモード変更後は、「電源オフ」、「シャットダウン」に設定されています。
- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「電源オフ」、「シャットダウン」から「スタンバイ」または「休止状態」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

〈正しく電源を切る方法〉

- ①「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- ②「終了」、「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

〈強制的に電源を切る方法〉

Windows 98のAPMモードと同じ方法(P.156)で切ってください。

●Power Savings

本項目の設定は無効になります。

● **Auto Suspend Timeout**

本項目の設定は無効になります。



● **Hard Disk Timeout**

本項目の設定は無効になります。

● **System Switch、Power Button Behavior**

本項目の設定は無効になります。



● **Power Loss Resume(☆)**

AC電源(AC100V)が失われ、再投入したとき、どの状態に復旧するかを設定します。本項目はミタワ型の場合に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Power Loss Resume	Keep Off	AC投入時に電源は入りません。
	Keep On	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切られた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Keep Loss	AC投入時に電源が入ります。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



● **Keyboard Power On**

本項目はミタワ型の場合に表示されます。本項目の設定は変更しないでください。



● **Mouse Power On**

本項目はミタワ型の場合に表示されます。本項目の設定は変更しないでください。

● **Resume On Modem Ring**

本項目の設定は無効になります。



● **Resume On PME**

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「On」に設定します。工場出荷時は「On」です。本項目はミタワ型の場合に表示されます。



PME(PCI Power Management Event)とは管理者のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能で起動することです。



リモートパワーオン機能→「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)、「PART1 本体の構成各部」の「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」の「リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)」(P.108)

●Resume On Time

本項目の設定は無効になります。

●Resume Time

本項目の設定は無効になります。

Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)

Windows 98のAPMモード(工場出荷時)の場合の本機の省電力管理設定を行います。

表示が異なるところは、省スペース型、ミニタワー型の順に記述してあります。

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。ミニタワー型をユーザパスワードで起動した場合、「Powerの設定」の項目は設定できなくなります。

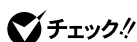
●Power Savings(☆)

パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
Power Savings	Disabled	パワーマネジメント機能を停止します。
	Customized	自動サスペンドおよびハードディスクのタイムアウト時間をユーザが選択できます。 Auto Suspend Timeout : Off Hard Disk Timeout : Disabled

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説 明
Power Savings	Maximum Power Savings	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 5 Minutes Hard Disk Timeout: 1 Minute
	Maximum Performance	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 60 Minutes Hard Disk Timeout: 15 Minutes



チェック!!

「Customized」、「Maximum Power Savings」で10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

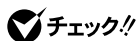
●Auto Suspend Timeout(☆)

本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は「Off」に設定されています。



●Hard Disk Timeout(☆)

ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。本項目は省スペース型の場合に表示されます。



チェック!!

10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。また、Windows 98のAPMモードで「Hard Disk Timeout」の時間を設定しても、Windowsの電源管理と「Hard Disk Timeout」で設定時間の短い方の設定が優先されます。



● System Switch(☆)



● Power Button Behavior

「System Switch」、「Power Button Behavior」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。

工場出荷時の設定は、電源の管理モードが「APMモード」、システムスイッチが「Power Button」、「On/Off」に設定されています。

- ・「Power Button」、「On/Off」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
- ・「Sleep Button」、「Wake/Sleep」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「System Switch」、「Power Button Behavior」の設定を「Power Button」、「On/Off」(工場出荷時)から「Sleep Button」、「Wake/Sleep」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

〈方法1〉

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける**
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

〈方法2〉

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける**
電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。



● **Power Loss Resume(☆)**

AC電源(AC100V)が失われ、再投入したとき、どの状態に復旧するかを設定します。本項目はミタワ型の場合に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Power Loss Resume	Keep Off	AC投入時に電源は入りません。
	Keep On	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切られた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Keep Loss	AC投入時に電源が入ります。

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



● **Keyboard Power On**

本項目はミタワ型の場合に表示されます。



チェック!! 本項目の設定は変更しないでください。



● **Mouse Power On**

本項目はミタワ型の場合に表示されます。



チェック!! 本項目の設定は変更しないでください。

● **Resume On Modem Ring(☆)**

「On」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。工場出荷時は「Off」に設定されています。



● Resume On PME

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには本項目を「On」に設定します。工場出荷時は「On」です。本項目はミニタワー型の場合に表示されます。



PME(PCI Power Management Event)とは管理者のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能で起動することです。



リモートパワーオン機能→「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)、「PART1 本体の構成各部」の「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」の「リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)」(P.113)

● Resume On Time(☆)

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間(Resume Time)で本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

● Resume Time(☆)

レジュームする時刻を設定します。

Bootの設定

電源の設定

AC電源投入時の電源状態や、PCIデバイスにより電源を入れるための設定を行います。

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。



● Restore On AC/Power Loss

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。省スペース型の場合に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源は入りません。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源が入ります。

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



● On PME(☆)

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。本項目は、省スペース型の場合に表示されます。



PME(PCI Power Management Event)とは管理者のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能で起動することです。



参照 リモートパワーオン機能→「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.120)、「PART1 本体の構成各部」の「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」の「リモートパワーオン機能の設定について(Windows Meの場合)」(P.108)または「リモートパワーオン機能の設定について(Windows 98の場合)」(P.113)

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動した場合のみ変更可能です。

ミニタワー型をユーザパスワードで起動した場合、「起動順位の設定」の項目は設定できなくなります。

● 起動順位(次の表が表示されます)

設定項目	設定内容		説明
	省スペース型	ミニタワー型	
1	[Removable Devices]	Removable Devices	本機を起動するデバイスの順番を決めます。1～4の数字に設定したデバイスの順番に起動されます。ミニタワー型の場合、設定項目は表示されません。
2	[ATAPI CD-ROM Drive]	Hard Drive	
3	[Hard Drive]	ATAPI CD-ROM Drive	
4	[Network Boot]	Network Boot	

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルをあわせめます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を押すとリストの下側に移動します。

複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。ミニタワー型の場合、【Enter】で下位の項目を表示します。



チェック!!

使用環境にあわない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。



● Hard Drive(☆)

ハードディスクドライブの検索する順番を設定します。

本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。本項目は省スペース型の場合に表示されます。なお、SCSIインタフェースボードに接続された機器からブートする場合は、「PART4 SCSI設定」「SCSI SELECTについて」「使用上の注意」(P.192)をご覧ください。



● Removable Devices(☆)

取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブの検索する順番を設定します。

本機は、フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが1台なので設定を変更する必要はありません。本項目は省スペース型の場合に表示されます。



● Removable Format(この項目はスーパーディスクドライブを搭載している装置のみ表示)(☆)

取外し可能なデバイスに挿入されているメディアのフォーマットが、ハードディスクか、取り外し可能デバイスかを設定します。本項目は、省スペース型の場合に表示されます。



● Summary Screen

「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。本項目は、省スペース型の場合に表示されます。



システム設定(デスクトップ型の場合)

この章ではデスクトップ型のBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	164
Standard CMOS Setupの設定	166
Advanced CMOS Setupの設定	169
Advanced Chipset Setupの設定	174
Power Management Setupの設定	175
PCI / Plug and Play Setupの設定	183
Peripheral Setupの設定	184
Hardware Monitor Setupの設定	187
Auto-Detect Hard Disksの設定	188
Security Setupの設定	189

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

- 1 本体の電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴ画面で、「Press <F2> to Enter BIOS Setup,<F12> to Network Boot.」と表示されたら、**[F2]**を押す
以下の画面が表示されます。

AMIBIOS HIFLEX SETUP UTILITY - VERSION X.XX	
(C) 1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
BIOS Revision XXXXXXXX	
Standard CMOS Setup	
Advanced CMOS Setup	
Advanced Chipset Setup	
Power Management Setup	
PCI / Plug and Play Setup	
Peripheral Setup	
Auto-Detect Hard Disks	
Security Setup	
Auto Configuration with Optimal Settings	
Save Settings and Exit	
Exit Without Saving	
Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc.	
ESC : Exit ↑ ↓ : Sel F3/F4 : Color F9 : Load Optimal Values F10 : Save & Exit	



BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・ **[↑][↓][←][→]**で設定項目を選択します。
- ・ 設定項目内の選択は**[Page Up][Page Down]**で設定します。
- ・ 「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は**[Tab]**で行います。
- ・ **[Enter]**で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

終了の選択項目

選択項目	説明
Save Settings and Exit	変更した設定を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Without Saving	変更した設定を保存せずに終了します。 (【Esc】を押す終了方法と同じ)
Auto Configuration with Optimal Settings	すべての選択項目をデフォルト値 (初期値) に戻します。(【F9】を押す終了方法と同じ)

⚠ デフォルト値を読み込むときの注意

「デフォルト値」は、工場出荷時の設定値ではありません。工場出荷時の設定値に戻すには、デフォルト値を読み込んだ後、ご使用のモデルにあわせて設定を変更する必要があります。必ず、次の「工場出荷時の設定値に戻す」へ進み、手順に従ってください。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1 本体の電源を入れ、「NEC」ロゴ画面が表示されたら【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 2 「Auto Configuration with Optimal Settings」を選択し、
【Enter】を押す
- 3 「Load high performance settings (Y/N)?」と表示されたら
【Y】を押し、【Enter】を押す
- 4 「Save Settings and Exit」を選択し、【Enter】を押す
- 5 「Save Current Settings and exit (Y/N)?」と表示されたら
【Enter】を押す
設定値が保存され、自動的に再起動します。

Standard CMOS Setupの設定

Standard CMOS Setupの設定

Standard CMOS Setupでは、日付と時刻の設定や、本機の基本的なハードウェア(フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブなどのIDEデバイス)の設定を行います。

項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

● Date (mm/dd/yyyy) (☆)

現在の日付を「月/日/年」で入力して設定します。

● Time (hh/mm/ss) (☆)

現在の時刻を24時形式の「時:分:秒」で入力して設定します。

● Floppy Drive A (☆)

標準で搭載されているフロッピーディスクドライブのモードを設定します。本項目の設定は変更しないでください。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Drive A	Not Installed 1.2 MB 5 1/4 720 KB 3 1/2 1.44/1.25 MB 3 1/2	「Not Installed」の場合、フロッピーディスクドライブが接続されていても使用することができません。工場出荷時は「1.44/1.25MB 3 1/2」です。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

● Floppy Drive B (☆)

別売のフロッピーディスクドライブを接続したときのモードを設定します。設定項目はFloppy Drive Aと同じですが、工場出荷時には「Not Installed」に設定されています。

● Pri Master(☆)

現在接続されているIDEデバイス(Primary Master:ハードディスクドライブ)が表示されます。本項目の設定は変更しないでください。

設定項目	設定内容	説明
Type	User Auto CDROM FLOPTICAL Not Installed 1～46	「Auto」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「User」に設定すると以下の(*)の項目でユーザーによる指定ができます。
Size	(表示項目です)	ハードディスクの容量(MB)を表示します。
Cyln (*)	0～65535	シリンダ数を設定します。
Head (*)	0～255	ヘッド数を設定します。
WPcom (*)	0～65535	書き込み補正 (Write Precompensation)を開始するヘッド退避シリンダ番号を設定します。
Sec (*)	0～255	1トラック当たりのセクタ数を設定します。
LBA Mode (*)	Off On	LBAモードを使用するかを設定できます。
Blk Mode (*)	Off On	ブロック転送モードを使用するかを設定できます。
PIO Mode (*)	Auto 0、1、2、3、4、5	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータ交換時のデータ転送モードを設定できます。
32Bit Mode (*)	Off On	32ビットIDEデータ転送を使用するかを設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

● Pri Slave(☆)

3.5インチベイに増設されるIDEデバイス(Primary Slave:モデルによっては追加ハードディスクドライブ)の設定を行います。「Pri Master」と同じ設定です。

● **Sec Master(☆)**

現在接続されているIDEデバイス(Secondary Master:CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ)が表示されます。「Pri Master」と同じ設定です。本項目の設定は変更しないでください。

● **Sec Slave(☆)**

5インチベイに増設されているIDEデバイス(Secondary Slave)の設定をします。「Pri Master」と同じ設定です。本項目の設定は変更しないでください。

● **Boot Sector Virus Protection(☆)**

ハードディスクドライブのブートセクタの設定をします。

設定項目	設定内容	説 明
Boot Sector	Disabled	ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。書き込み禁止(Enabled)にすると起動セクタをウィルスから保護します。
Virus Protection	Enabled	

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Advanced CMOS Setupの設定

Advanced CMOS Setupの設定

Advanced CMOS Setupでは、DMIイベントログの設定、起動デバイスの設定、その他のハードウェアの機能を設定します。



各設定内容で起動する装置は次の通りです。

- Disabled …… 使用しない
- IDE-0～1 …… 工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ
IDE-0: Pri Master (ハードディスクドライブ)
IDE-1: Pri Slave (追加ハードディスクドライブ)
IDE-2、IDE-3は設定しないでください。
- Floppy …… 工場出荷時に内蔵されているフロッピーディスクドライブ
- Super Disk … 工場出荷時に内蔵されているスーパーディスクドライブ
- CDROM …… 工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ
- SCSI …… 工場出荷時に内蔵されているSCSIインタフェースボード
- NETWORK … 工場出荷時に内蔵されているLANボード

なお、SCSIインタフェースボードに接続された機器からブートする場合は、「PART4 SCSI設定」「SCSI SELECTについて」「使用上の注意」(P.192)をご覧ください。

設定項目	設定内容	説明
Event log capacity	(表示項目です)	DMIイベントログの容量(サイズ)を表示します。
Event log validity	(表示項目です)	DMIイベントログの有効性を表示します。
View DMI event log	(表示項目です)	【Enter】を押すと、DMIイベントログ情報(履歴)が表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Clear all DMI event logs	No Yes	DMIイベントログの消去を設定します。消去する(Yes)に設定し、設定を保存して終了しても再起動後は消去しない(No)になります。
Event logging	Disabled Enabled	DMIイベントログの記録を設定します。
Mark DMI events as read	No Yes	DMIイベントログのマーキングを設定します。DMIイベントログがない場合は選択できません。
Quick Boot	Disabled Enabled	コンピュータ起動時のクイックブートの使用を設定します。「Enabled」の場合、一部のテストをスキップするので、本機の起動時間が短縮されます。
1st Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	本機を起動するために使用するデバイスの優先順位を指定します。起動順位は1st Boot Deviceに指定したディスク装置から順番に起動されます。
2nd Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
3rd Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。
4th Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。
Try Other Boot Devices	Yes No	「1st Boot Device」から「4th Boot Device」で設定された以外のデバイスから起動します。
Initial Display Mode	BIOS Silent	BIOSチェック画面のモードを設定します。「BIOS」ではBIOSのチェック情報を表示します。「Silent」ではNECのロゴ画面が表示されます。
Display Mode at Add-On ROM Init	Force BIOS Keep Current	SCSIインタフェースボードなど内蔵ROMを搭載した機器の起動時のROM情報の表示を設定します。「Force BIOS」ではROM情報が表示されます。「Keep Current」ではNECロゴの画面に隠れます。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説 明
Floppy Access Control	Read-Write Read-Only	フロッピーディスクの読み書きについて設定します。「Read-Only」の場合、書き込み不可、読み込み専用となります。
S.M.A.R.T for Hard Disks	Disabled Enabled	ハードディスクに対してSMART機能を設定します。「Enabled」の場合、ハードディスクの異常を検知します。
BootUp Num-Lock	Off On Auto	コンピュータ起動時にNum Lockするか設定します。「Auto」の場合、起動時にテンキーありキーボード（USB109キーボード、USB98配列キーボード、PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード）が接続されているとNum Lockされます。起動時にUSB小型キーボード（テンキーなし）が接続されているとNum Lockされません。「On」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされます。「Off」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされません。
Floppy Drive Swap	Disabled Enabled	フロッピーディスクドライブのAドライブとBドライブを入れ替える設定をします。本項目の設定は変更しないでください。
Floppy Drive Seek	Disabled Enabled	本機の起動時にフロッピーディスクドライブをチェックするかを設定します。
PS/2 Mouse Support	Disabled Enabled	PS/2 マウスの認識を設定します。PS/2 キーボードとマウスの場合は「Enabled」に設定されています。本項目の設定は変更しないでください。
CPU Serial Number	Disabled Enabled	「Processor Serial Number」機能を設定します。MA66H/Sでは、本項目の設定は無効です。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
System BIOS Cacheable	Disabled Enabled	BIOSシステムのキャッシングを設定します。本項目は変更しないでください。
Hardware Monitor	Disabled Enabled	本機のハードウェアの監視を設定します。「Enabled」に設定して保存すると、再起動時に「Hardware Monitor Setup」の項目が表示されます。詳細については、「Hardware Monitor Setupの設定」(P.187)をご覧ください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



DMI (Desktop Management Interface) とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。



Advanced Chipset Setupの設定

Advanced Chipset Setupの設定

Advanced Chipset Setupでは、USBの機能を設定します。

●USB Function

USB機能の有効/無効を設定します。工場出荷時は、有効(Enabled)に設定されています。

●USB Legacy Support

USBレガシー機能の有効/無効を設定します。工場出荷時は、有効(Enabled)です。

Windows NT 4.0を利用する場合は、キーボードの種類によって、次のようになります。

無効(Disabled) … PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード

有効(Enabled) … USB 109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード

Power Management Setupの設定

Power Management Setupの設定(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合)

Windows MeおよびWindows 98をACPIモードに変更した場合の電力を節約するためのさまざまな設定をします。

「Video Power Down Mode」、「Hard Disk Power Down Mode」、「Suspend Timeout(Minute)」、「Power Button Function」の設定は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「電源の管理」で行ってください。

参照

「電源の管理」の設定→Windowsのヘルプ

電源スイッチの設定→「Power Button Function」について(P.177)

設定項目	設定内容	説明
Power Management/ APM	Disabled Enabled	BIOSによる省電力機能(電源管理がAPMモード)の使用を設定します。変更しないでください。
Green PC LED Status	Single Color Dual Color	本項目の設定は無効になります。
Green PC Monitor Power State	Suspend Off	
Video Power Down Mode	Disabled Suspend	
Hard Disk Power Down Mode	Disabled Suspend	
Suspend Time Out (Minute)	Disabled 1、2、4、8、10、 20、30、40、 50、60r	

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Keyboard & PS/2 Mouse Access	Ignore Monitor	本項目の設定は無効になります。
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore Monitor	
SB & MSS Audio Ports Access	Ignore Monitor	
MIDI Ports Access	Ignore Monitor	
ADLIB Ports Access	Ignore Monitor	
Primary Master IDE Access	Ignore Monitor	
Primary Slave IDE Access	Ignore Monitor	
Secondary Master IDE Access	Ignore Monitor	
Secondary Slave IDE Access	Ignore Monitor	
PIRQ[A] IRQ Active	Ignore Monitor	
PIRQ[B] IRQ Active	Ignore Monitor	
PIRQ[C] IRQ Active	Ignore Monitor	
PIRQ[D] IRQ Active	Ignore Monitor	
System Thermal	Ignore Monitor	
Power Button Function	On/Off Suspend	

※網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Restore on AC/Power Loss	Power Off Power On Last State	AC電源(AC100V)が失われ、電源を再投入したときの復旧状態を設定します。「Power Off」はAC電源投入時に電源は入らないように、「Power On」はAC電源投入時に電源が入るように、「Last State」はAC電源が失われたときの状態に設定します。
Resume By PME From Soft Off	Disabled Enable	リモート起動(PME)で電源を操作するかを設定します。
Ring Resume From Soft Off	Disabled Enable	本項目の設定は無効になります。
RTC Alarm Resume From Soft Off	Disabled Enable	

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

下記の項目は、「RTC Alarm Resume From Soft Off」が有効(Enabled)の場合に設定することができます。

設定項目	設定内容	説明
RTC Alarm Date	Every Day 01～31	本項目の設定は無効になります。
RTC Alarm Hour	00～23 00	
RTC Alarm Minute	00～59 00	
RTC Alarm Second	00～59 00	

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

「Power Button Function」について

「Power Button Function」の設定は無効になり、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「電源の管理」の「詳細設定」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になります。Windows Meの工場出荷時およびWindows 98のACPIモード変更後は、「電源オフ」、「シャットダウン」に設定されています。

「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「電源オフ」、「シャットダウン」から「スタンバイ」または「休止状態」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

正しく電源を切る方法

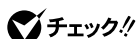
- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「次の中から選んでください」で「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

Windows 98のAPMモードと同じ方法(P.182)で切ってください。

Power Management Setupの設定(Windows 98のAPMモードの場合)

Windows 98のAPMモード(工場出荷時)の場合の電力を節約するためのさまざまな設定をします。



チェック!!

BIOSセットアップメニューの「Power Management Setup」→「Hard Disk Power Down Mode」が「Suspend」での「Suspend Time Out(Minute)」の設定は、Windows 98の「コントロールパネル」→「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」でも設定できますが、これらの設定は、設定時間の短い方が有効になります。「Suspend Time Out(Minute)」の設定を10分未満にした場合、設定した時間になってもハードディスクのモータが停止しないことがあります。



「Video Power Down Mode」で設定する「Suspend」とは、VESA (Video Electronics Standards Association) で定義されているディスプレイの省電力モードのことです。VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。

設定項目	設定内容	説明
Power Management / APM	Disabled Enabled	BIOSによる省電力機能(電源管理がAPMモード)の使用を設定します。変更しないでください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Green PC LED Status	Single Color Dual Color	スタンバイ時の電源ランプの表示を設定します。「Single Color」はスタンバイ時は緑、「Dual Color」はスタンバイ時はオレンジです。
Green PC Monitor Power State	Suspend Off	スタンバイ時の省電力対応のディスプレイの状態を設定します。「Suspend」ではスタンバイ状態に、「Off」ではディスプレイの電源を一時的に切ります。
Video Power Down Mode	Disabled Suspend	ディスプレイの省電力機能を Suspend モードで使用する (Suspend) / 使用しない (Disabled) を設定します。
Hard Disk Power Down Mode	Disabled Suspend	ハードディスクの省電力機能を Suspend モードで使用する (Suspend) 、使用しない (Disabled) を設定します。
Suspend Time Out (Minute)	Disabled 1、2、4、8、10、 20、30、40、 50、60	ディスプレイの省電力機能のタイムアウト時間を分単位で設定します。本機への操作をしない状態で設定した時間が経過すると、スタンバイ状態になります。「Disabled」の場合スタンバイしません。
Keyboard & PS/2 Mouse Access	Ignore Monitor	キーボードと PS/2 マウスが動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore Monitor	フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポートへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
SB & MSS Audio Ports Access	Ignore Monitor	別売サウンドカードのオーディオポートへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
MIDI Ports Access	Ignore Monitor	MIDIポートへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説 明
ADLIB Ports Access	Ignore Monitor	ADLIBポートへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Primary Master IDE Access	Ignore Monitor	Primary Masterに接続したIDEデバイス（ハードディスクドライブ）へのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Primary Slave IDE Access	Ignore Monitor	Primary Slaveに接続したIDEデバイスへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Secondary Master IDE Access	Ignore Monitor	Secondary Masterに接続したIDEデバイス（CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブ）へのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Secondary Slave IDE Access	Ignore Monitor	Secondary Slaveに接続したIDEデバイスへのアクセス中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
PIRQ[A] IRQ Active	Ignore Monitor	PCIバス（INT A）のIRQ割り込みを監視して、スタンバイ状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[B] IRQ Active	Ignore Monitor	PCIバス（INT B）のIRQ割り込みを監視して、スタンバイ状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[C] IRQ Active	Ignore Monitor	PCIバス（INT C）のIRQ割り込みを監視して、スタンバイ状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[D] IRQ Active	Ignore Monitor	PCIバス（INT D）のIRQ割り込みを監視して、スタンバイ状態へ遷移しないようにするかを設定します。
System Thermal	Ignore Monitor	筐体内温度を監視して、スタンバイ状態へ遷移しないようにするかを設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Power Button Function	On/Off Suspend	詳細については「Power Button Functionについて」(P.182)をご覧ください。
Restore on AC/Power Loss	Power Off Power On Last State	AC電源(AC100V)が失われ、電源を再投入したときの復旧状態を設定します。「Power Off」はAC電源投入時に電源は入らないように、「Power On」はAC電源投入時に電源が入るように、「Last State」はAC電源が失われたときの状態に設定します。
Resume By PME From Soft Off	Disabled Enable	リモート起動(PME)で電源を操作するかを設定します。
Ring Resume From Soft Off	Disabled Enable	FAXモデムのリング機能で電源オン、スタンバイから復帰するかを設定します。
RTC Alarm Resume From Soft Off	Disabled Enable	内蔵時計(RTC:リアルタイムクロック)で、電源オン、スタンバイから復帰するかどうかを設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

下記の項目は、「RTC Alarm Resume From Soft Off」が有効(Enabled)の場合に設定することができます。

設定項目	設定内容	説明
RTC Alarm Date	Every Day 01~31	内蔵時計の電源を入れる日を設定します。
RTC Alarm Hour	00~23 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1時間単位)を設定します。
RTC Alarm Minute	00~59 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1分単位)を設定します。
RTC Alarm Second	00~59 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1秒単位)を設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

「Power Button Function」について

「Power Button Function」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。

工場出荷時の設定は、「On/Off」に設定されています。

- ・「On/Off」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
- ・「Suspend」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「Power Button Function」の設定を「On/Off」（工場出荷時）から「Suspend」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「電源を切れる状態にする」→「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で、強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

〈方法1〉

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプが、オレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

〈方法2〉

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色に点灯し、一瞬だけ緑色に変わり、電源が切れるとランプが切れます。

PCI / Plug and Play Setupの設定

PCI / Plug and Play Setupの設定

PCI / Plug and Play Setupでは、プラグ&プレイに関するの設定をします。

設定項目	設定内容	説明
Plug and Play Aware O/S	No Yes	プラグアンドプレイ対応のOSかどうかを設定します。工場出荷時は「Yes」です。
Clear NVRAM	No Yes	PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値の初期化を設定します。「Yes」で初期化します。ただし、再起動時には「No」に設定されます。
Primary Graphic Adapter	OnBoard VGA Add-on VGA	プライマリのグラフィックカードの設定をします。「OnBoard VGA」で本体内蔵のグラフィックを、「Add-on VGA」では別売のグラフィックカードを優先して使用します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Peripheral Setupの設定

Peripheral Setupの設定

Peripheral Setupでは、周辺装置に関する設定をします。

設定項目	設定内容	説明
OnBoard FDC	Auto Disabled Enabled	内蔵フロッピーディスクコントローラを使用する (Enabled)、使用しない (Disabled:I/Oロックが有効)、自動 (Auto) を設定します。
OnBoard Serial Port A	Auto Disabled 3F8/COM1 2F8/COM2 3E8/COM3 2E8/COM4	シリアルポート (COMポート、シリアルコネクタ) の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、I/Oロックが有効になり、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがシリアルポートを使用できないようにします。
OnBoard Parallel Port	Auto Disabled 378 278 3BC	パラレルポート (プリンタポート、パラレルコネクタ) の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、I/Oロックが有効になり、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがパラレルポートを使用できないようにします。
Parallel Port Mode	Normal Bi-Dir EPP ECP	パラレルポートの動作モードを設定します。ご利用のプリンタのモードについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説 明
EPP Version	EPP 1.9 EPP 1.7	Parallel Port ModeのEPP Versionを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」の場合に設定可能となります。
Parallel Port IRQ	5 7	パラレルポートで使用するIRQを設定します。
Parallel Port DMA Channel	0 1 3	パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「ECP」の場合に設定可能となります。
OnBoard Midi Port	Disabled 330 300 290 292	MIDIポート (MIDI/Joystickコネクタ) の設定をします。本項目は利用できないので変更しないでください。
Midi IRQ Select	5 7 9 10	MIDIポート (MIDI/Joystickコネクタ) に割り当てるIRQの設定をします。「OnBoard MIDI Port」の設定が「330」「300」「292」「290」の場合に設定可能となります。本項目は変更しないでください。
OnBoard Game Port	Disabled 200 208	ゲームポート (MIDI/Joystickコネクタ) の設定をします。本項目は変更しないでください。
OnBoard IDE	Disabled Primary Secondary Both	IDEコントローラの設定をします。I/Oロックを有効(Disabled)にするとき以外は、設定内容を変更しないでください。
OnBoard AC'97 Audio	Enabled Disabled	内蔵サウンド機能の使用を設定します。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOS-セットアップメニューの「Peripheral Setup」で以下のI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブ(OnBoard FDC)、シリアルポート(OnBoard Serial Port A)、パラレルポート(OnBoard Parallel Port)です。

Hardware Monitor Setupの設定

Hardware Monitor Setupの設定

Hardware Monitor Setupでは、ハードウェアの監視機能を設定します。「Advanced CMOS Setup」→「Hardware Monitor」(P.173)を「Enabled」に設定後、設定を保存して再起動すると表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Chassis Intrusion	Disabled Enabled Reset	筐体の開閉監視を設定します(ルーフカバーオープン検知)。「Enabled」を選択すると、一度本体のカバーを取り外すと、カバーを取り付けた後でもカバーが取り外された旨のメッセージを表示します。なお、メッセージを解除する場合は、「Reset」に設定して再起動してください。 再起動時には「Disabled」に設定されます。
CPU Temperature Detected by	CPU Thermistor	CPUの温度監視を設定します。本項目は変更しないでください。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



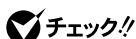
Auto-Detect Hard Disksの設定

Auto-Detect Hard Disksでは、接続された各IDE機器を自動的に設定します。設定できる項目は、「Standard CMOS Setupの設定」(P.166)と同じです。ユーザパスワードでも設定可能です。

Security Setupの設定

Security Setupの設定

Security Setupでは、スーパーバイザパスワードおよびユーザパスワードの設定をします。パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、6文字以内でなければなりません。また、大文字/小文字の区別はありません。



チェック!

ご購入元、NECに本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

参照

NECの問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

設定項目	設定内容	説明
Password Check	Setup Always	パスワードを入力する場面を設定します。「Setup」ではBIOSセットアップメニュー起動時に、「Always」ではシステム起動時とBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力を要求します。
Change User Password (☆)	(パスワード入力)	ユーザパスワードの設定を行います。スーパーバイザパスワードが設定されていないときは設定できません。
Change Supervisor Password	(パスワード入力)	スーパーバイザパスワードの設定を行います。設定した場合、BIOSセットアップメニュー起動時にスーパーバイザパスワードを入力する必要があります。

※網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

パスワードの解除

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定により制限することができます。パスワードを入れて【Enter】を押すと解除されます。もし、これらのパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

SCSI設定

この章では、SCSI SELECTについて説明します。SCSI SELECTは、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルのユーティリティで、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)に対してさまざまな設定を行うものです。

この章の読み方

「SCSI SELECTについて」を読んだ後に、「SCSI SELECTでの設定項目」をお読みください。

この章の内容

SCSI SELECTについて	192
SCSI SELECTでの設定項目	194



SCSI SELECTについて

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)(PC-M-SCUWS2)が標準で内蔵されているモデルでは、Ultra SCSIインタフェースに対してさまざまな設定を行うためのユーティリティとして、SCSI SELECTが搭載されています。ここではSCSI SELECTの使用方法や注意事項を説明します。

SCSI SELECTでの設定が必要な場合

SCSI SELECTを使用して設定することが必要になるのは次の場合です。

接続されているSCSI機器のSCSI IDを変更した場合

使用するSCSI機器を増設・変更した場合

これらの場合、SCSI SELECTを使用して、データ転送に関しての設定変更や、使用するSCSI機器によっては低レベルフォーマットを行う必要があります。

使用上の注意

- ・ SCSI SELECTを使用して設定を変更するためには、SCSIに関する知識を必要とすることが多数あります。設定する内容を十分理解した上で変更してください。間違った設定を行うと、データの破壊や本体が起動しないなどのトラブルの原因となります。
- ・ SCSI SELECTで可能なデータ転送に関しての設定は、接続しているSCSI機器の種類、台数、総ケーブル線長によって変わります。これらの制限に関しては、『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「別売のSCSIインタフェース機器の増設」をご覧ください。
- ・ ディスク装置に低レベルフォーマットを行う場類「へ、誤って他のSCSI機器をフォーマットしてしまわないように注意してください。ディスク装置を低レベルフォーマットすると、すべてのデータが消えてしまいます。
- ・ 内蔵Ultra SCSIインタフェースボードを持つ本機に別売のSCSIボードを実装して使用することはできません。

参照

SCSIボードのBIOSの起動について→「SCSI SELECTでの設定項目」(P.194)

- Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載したモデルでWindows Meをご利用の場合、SCSI機器を利用しているときは休止状態にはできませんので休止の設定はしないでください。
- Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載したモデルでは、初回起動時にEMM386エラーが表示される場合があります。SCSIインタフェースボードに接続した機器をブートする場合、EMM386.exeが使えませんが、デバイスドライバを設定しているファイル(config.sys)から外して(rem文にするなど)ください。なお、EMM386.exeをご利用になる場合、SCSIインタフェースボードに接続した機器からはブートできませんので、SCSI BIOSのブートを無効(Disabled)にしてください。設定の詳細については「Advanced Configuration Options」の「Host Adapter BIOS」(P.209)をご覧ください。

SCSI SELECTでの設定項目

ここではSCSI SELECTで設定可能なすべての項目について説明します。

SCSI SELECTの設定項目一覧と初期設定

SCSI SELECTで設定できる項目と、その工場出荷時の設定値は次の通りです。また、SCSI SELECTでは低レベルフォーマットとディスクのペリファイアを行うことができます。

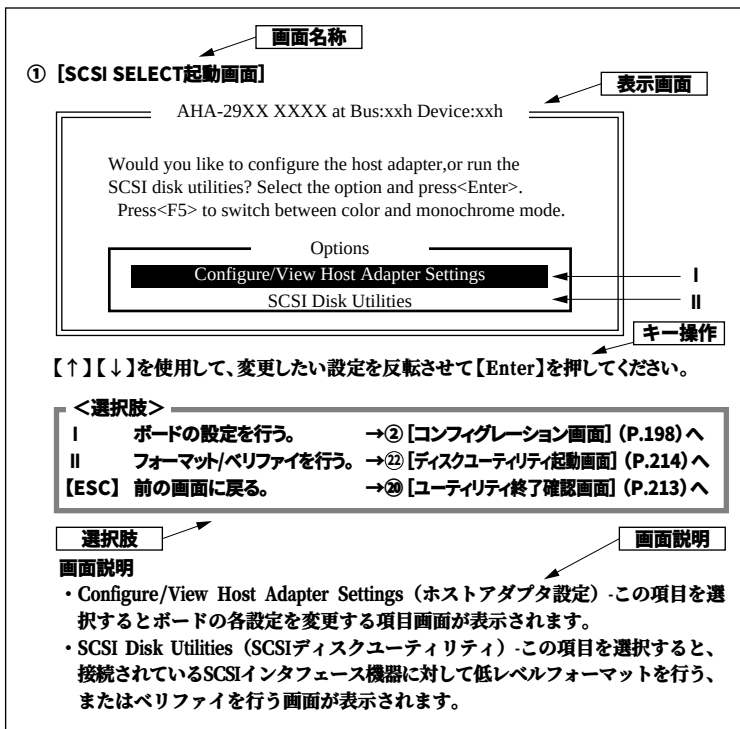
SCSI SELECTの機能		工場出荷時の設定 Ultra SCSI (Wide対応)
SCSIボードの設定	ボードのSCSI ID設定	7
	パリティ機能の有効/無効設定	Enabled (有効)
	終端機能設定	Automatic (自動)
	起動チャネルの設定	A First
	起動SCSI IDを指定	0
	起動LUNを指定	0
デバイスの設定	転送速度の設定	40.0 MB/Sec
	Wide転送の有効/無効設定	Yes (有効) *
	ディスコネクトの有効/無効設定	Yes (有効)
	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	No (無効)
	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	N/C (無効)
	マルチプルLUNの有効/無効設定	No (無効)
	BIOSスキャンの有効/無効設定	Yes (有効)
SCSIボードの拡張設定	SCAMの有効/無効設定	Disabled (無効)
	SCSIバシリセットの有効/無効設定	Enabled (有効)
	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	Enabled (有効)
	1GB以上デバイスサポートの有効/無効設定	Enabled (有効)
	Verbose/Silent設定	Verbose
	BIOSの有効/無効設定	Enabled (有効)
	リムーバブルディスク設定	Boot Only (起動デバイスのみ)
	起動CD-ROM機能有効/無効設定	Enabled (有効)
	INT13サポートの有効/無効設定	Enabled (有効)
フォーマット/ ペリファイ	低レベルフォーマット	
	ディスクのペリファイ	

工場出荷時の設定は通常使用する上で、推奨する設定になっています。
(*を除く)

*は接続するSCSI機器によって設定を変更する必要があります。

SCSI SELECTの画面の説明

SCSI SELECTの画面はすべて英語で表示されます。ここではSCSI SELECTを起動して表示される各画面に対して次のように説明しています。



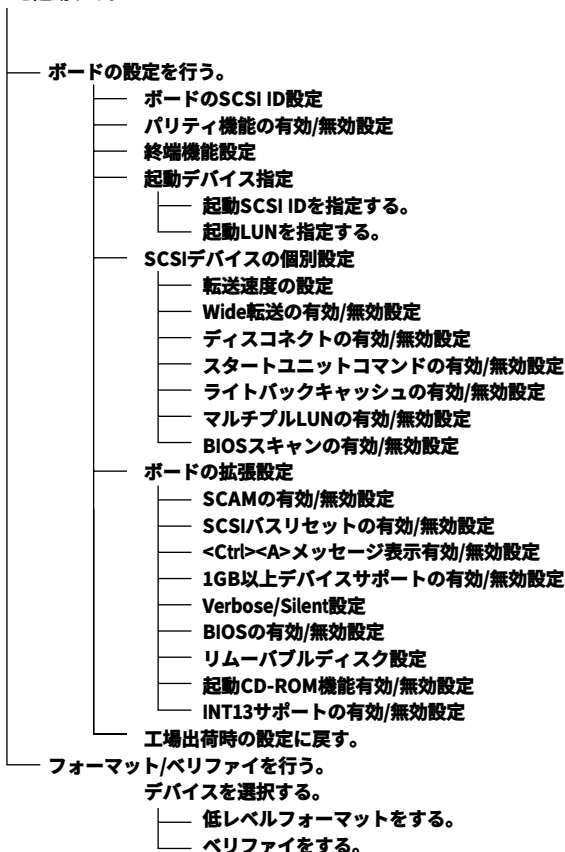
各部の説明

- 画面名称** : 説明が書かれている各画面の説明です。
- 表示画面** : SCSI SELECTを起動し、操作したときにディスプレイに表示される画面(一部)です。
- キー操作** : 表示画面で行うキー操作について説明しています。
- 選択肢** : 画面で選択可能な選択肢を選択した場合、次にどの画面説明に進めばよいかを示す画面名称を記述しています。
- 画面説明** : 画面に表示されている選択肢の説明をしています。

SCSI SELECTの構造

SCSI SELECTは次のような階層構造になっています。設定や処理を行う場合はSCSI SELECTを起動し、下図を参照して各設定項目の画面へ移動してください。

SCSI SELECTを起動する。



SCSI SELECTを起動する

1 本体の電源を入れる

「NEC」のロゴ画面が表示した後に、次の画面が表示されます。

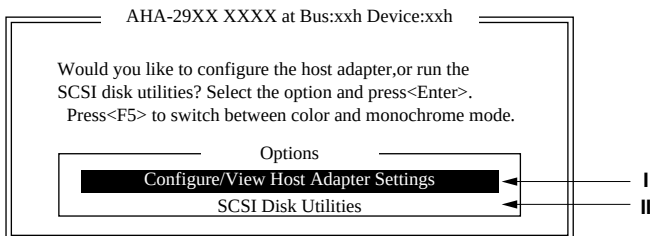
```
Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx
(c)1998 Adaptec, Inc. All Right Reserved

◀◀◀ Press<Ctrl><A>for SCSI Select (TM) Utility! ▶▶▶
```

2 【Ctrl】を押しながら【A】を押す

SCSI SELECTが起動し、次の画面が表示されます。もし、画面が表示されずOSが起動してしまった場合は、OSを正常終了した後にシステムを再起動させ、少し早めに【Ctrl】を押しながら【A】を押してください。

①【SCSI SELECT起動画面】



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

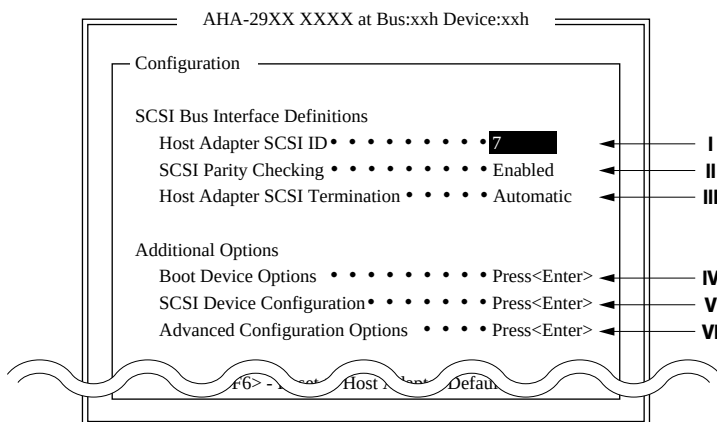
<選択肢>

- | | | |
|----|------------------|-----------------------------|
| I | ボードの設定を行う。 | →②【コンフィグレーション画面】(P.198)へ |
| II | フォーマット/ベリファイを行う。 | →②【ディスクユーティリティ起動画面】(P.214)へ |
| | 【ESC】 前の画面に戻る。 | →②【ユーティリティ終了確認画面】(P.213)へ |

画面説明

- ・ **Configure/View Host Adapter Setting**(ホストアダプタ設定) — この項目を選択するとボードの各設定を変更する項目画面が表示されます。
- ・ **SCSI Disk Utilities**(SCSIディスクユーティリティ) — この項目を選択すると、接続されているSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行う、またはベリファイを行う画面が表示されます。
- ・ 【F5】を押すとモノクロモードとカラーモードを切り換えることができます。

② [コンフィグレーション画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。工場出荷時の設定に戻す場合は【F6】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|-----|------------------------|------------------------------------|
| I | ボードのSCSI ID設定 | →③ [ボードのSCSI ID設定画面] (P.199)へ |
| II | パリティ機能の有効/無効設定 | →④ [パリティ有効/無効設定画面] (P.200)へ |
| III | 終端機能設定 | →⑤ [終端機能設定画面] (P.200)へ |
| IV | 起動デバイス指定 | →⑥ [起動コンフィグレーション起動画面] (P.201)へ |
| V | SCSIデバイスの個別設定 | →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ |
| VI | ボードの拡張設定 | →⑬ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| | 【F6】 工場出荷時の設定に戻す。 | →⑱ [初期設定変更画面] (P.212)へ |
| | 【ESC】 前の画面に戻る。 | →① [SCSI SELECT起動画面] (P.197)へ |
| | 【ESC】 設定の保存 (設定変更した場合) | →⑲ [設定保存画面] (P.213)へ |

画面説明

- **Host Adapter SCSI ID**(ホストアダプタSCSI ID)ーこの項目を選択するとボードのSCSI IDを変更する画面が表示されます。工場出荷時の設定はSCSI ID#7に設定されています。これはSCSIバスの中でボードが最も高い優先順位を持つ設定です。このまま変更しないで使用することを推奨します。

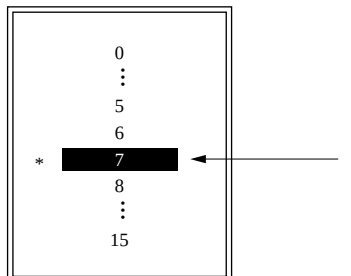
- **SCSI Parity Checking**(SCSIパリティチェック)ーこの項目を選択するとボードのパリティチェック機能を有効(Enabled)/無効(Disabled)に設定する画面が表示されます。

パリティチェックは、SCSIバス上のデータ転送が正確に行われたかをチェックする機能です。ボードにパリティ機能をサポートしないSCSIデバイスを接続する場合は、無効にしてください。ほとんどのSCSIデバイスは、パリティ機能をサポートしています。

SCSIデバイスがサポートしているかわからない場合は、SCSIデバイスの説明書を参照してください。

- **Host Adapter SCSI Termination**(ホストアダプタSCSIターミネーション)ーこの項目を選択すると、ボードの終端状態を変更する画面が表示されます。本機のボードのターミネーション設定は、Automatic(自動)のままにしてください。
- **Boot Device Option**(ブートデバイスオプション)ーこの項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスを指定する画面が表示されます。
- **SCSI Device Configuration**(SCSIデバイスコンフィグレーション)ーこの項目を選択すると、ボードと接続しているSCSIデバイス間の設定を行う画面が表示されます。
- **Advanced Configuration Option**(アドバンスドコンフィグレーションオプション)ーこの項目を選択すると、ボードの拡張設定の変更を行う画面が表示されます。

③ [ボードのSCSI ID設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい値を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|-------|-------------------|----------------------------|
| I | ボードのSCSI ID設定を行う。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| [ESC] | 変更を中止する。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |

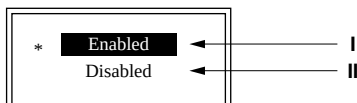
画面説明

画面に表示されている0～15の値はボードに設定可能なSCSI IDです。

ここで、値を選択することによりボードのSCSI IDを変更します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

④ [パリティ有効/ 無効設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい値を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

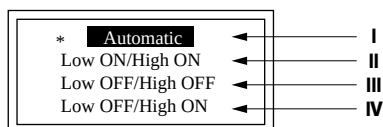
- | | | |
|----|----------------|----------------------------|
| I | パリティ機能を有効にする。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| II | パリティ機能を無効にする。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |

画面説明

パリティチェック機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑤ [終端機能設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|-----|----------------|----------------------------|
| I | 自動に設定する。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| II | すべて有効にする。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| III | すべて無効にする。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| IV | 上位8ビットだけ有効にする。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | →② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ |

画面説明

終端設定を自動にする場合は、Automaticを選択してください。

終端設定をすべて有効にする場合は、Low ON/High ONを選択してください。

終端設定をすべて無効にする場合は、Low OFF/High OFFを選択してください。

終端設定をデータビットの上位8ビットのみ有効にする場合は、Low OFF/High ONを選択してください。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

- 終端設定について

SCSIインタフェースは電送路の両端を終端する必要があります。お使いのボードにより、下記のコネクタがあります。これらのコネクタに接続するSCSIデバイスの構成により終端設定は変わります。Automatic以外の設定を行う場合は以下の表を参照して正しく終端設定を行ってください。

コネクタ 終端設定	内蔵Wide コネクタ	内蔵Narrow コネクタ	外付け コネクタ
Low ON/High ON	○	—	—
	—	○	—
	—	—	○
Low OFF/High ON	○	○	—
	—	○	○
Low OFF/High OFF	○	—	○

○:SCSIデバイスを接続している —:SCSIデバイスを接続しない

Automaticの設定にすると、ボードが自動的にSCSIデバイスの接続状況を判断して、適した終端設定を行います。

⑥ [起動コンフィグレーション起動画面]

Boot Device Configuration

Select SCSI peripheral from which to boot.

To view peripheral by ID# select " SCSI Disk Utilities " from previous menu.

Boot SCSI ID 0 I

— Option Listed Below Has NO EFFECT if MULTI LUN Support is Disabled

Boot LUN Number 0 II

【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

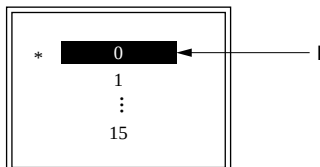
<選択肢>

- I 起動SCSI IDを指定する。→⑦ [起動SCSI ID設定画面] へ
- II 起動LUNを指定する。→⑧ [起動LUN設定画面] (P.203) へ
- 【ESC】 前の画面へ戻る。→② [コンフィグレーション画面] (P.198) へ

画面説明

- ・ **Boot SCSI ID**(ブートSCSI ID)ーこの項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを指定する画面が表示されます。
ここで選択されたSCSI IDは起動デバイスで構成されたIDと対応している必要があります。
- ・ **Boot LUN Number**(ブートLUNナンバー)ーこの項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を指定する画面が表示されます。
起動デバイスに複数のLUNを持っている場合は、起動させたいSCSIデバイスのLUNを指定する必要があります。
(このとき、Multiple LUN Supportが有効になっている必要があります。)

⑦ [起動SCSI ID設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

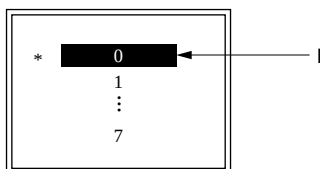
- I 起動するSCSI IDを選択する。→⑥ [起動コンフィグレーション起動画面] (P.201) へ
- 【ESC】 前の画面へ戻る。→⑥ [起動コンフィグレーション起動画面] (P.201) へ

画面説明

画面に表示されている0～15の中から、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑧ [起動LUN設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- I 起動するLUNを選択する。→⑥【起動コンフィグレーション起動画面】(P.201)へ
【ESC】 前の画面へ戻る。 →⑥【起動コンフィグレーション起動画面】(P.201)へ

画面説明

画面に表示されている0～7の中から、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面]

SCSI Device Configuration											
SCSI Device ID	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7			
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	←	I	
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	II	
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	III	
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	IV	
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	←	V	
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled											
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	←	VI	
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	VII	
SCSI Device ID	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14	#15			
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	←	I	
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	II	
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	III	
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	IV	
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	←	V	
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled											
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	←	VI	
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	VII	

【↑】【↓】【←】【→】を使用して、接続されているSCSIデバイスのSCSI IDに対応した設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

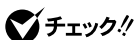
I	転送速度の設定	→⑪ [転送速度設定画面] (P.206) へ
II	Wide転送の有効/無効設定	→⑩ [デバイス有効/無効選択画面] (P.206) へ
III	ディスクコネクタの有効/無効設定	→⑩ [デバイス有効/無効選択画面] (P.206) へ
IV	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	→⑩ [デバイス有効/無効選択画面] (P.206) へ
V	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	→⑫ [デバイス有効/無効/変換なし選択画面] (P.207) へ
VI	マルチプルLUNの有効/無効設定	→⑩ [デバイス有効/無効選択画面] (P.206) へ
VII	BIOSスキャンの有効/無効設定	→⑩ [デバイス有効/無効選択画面] (P.206) へ
	[ESC] 前の画面に戻る。	→② [コンフィグレーション画面] (P.198) へ

画面説明

設定可能なデータ転送方式、データバス幅、転送速度は次の通りです。

SCSIインタフェース		ユーティリティで設定可能な値		
		転送方式	データバス幅 [単位：ビット]	転送速度 [単位：MB/秒]
Wide	Ultra SCSI	非同期	8	--- *
			16	--- *
		同期	8	20.0 10.0 16.0 8.0 13.4 6.7 5.0
			16	40.0 20.0 32.0 16.0 26.8 13.4 10.0
	SCSI-2	非同期	8	--- *
			16	--- *
		同期	8	10.0 6.7 8.0 5.0
			16	20.0 16.0 13.4 10.0
Narrow *2	Ultra SCSI	非同期	8	--- *
		同期	8	20.0 10.0 16.0 8.0 13.4 6.7 5.0
	SCSI-2	非同期	8	--- *
		同期	8	10.0 6.7 8.0 5.0

* 転送方式を“非同期”に設定した場合、転送速度を設定しても、その値は、無効となります。



チェック!!

- ・ 接続するSCSI機器がどのインタフェースに該当するかは、お使いのSCSI機器に添付されているマニュアルをご覧ください。
- ・ 接続するSCSI機器がどのSCSIインタフェースに該当するSCSI機器であるか不明の場合は、「Narrow」でかつ「SCSI-2」インタフェース機器として設定を行ってください。

- **Sync Transfer Rate**(最大同期転送速度)－この項目を選択すると、ボードとデバイス間の最大同期転送速度を設定する画面が表示されます。

- **Initiate Wide Negotiation**(Wide転送の取り決め)－この項目を選択すると、Wide転送機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。

Wide転送を行う(Yes)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して16ビットの幅でデータ転送を行います。

Wide転送を行わない(No)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して8ビットの幅でデータ転送を行います。

Wide転送するには、接続されているSCSIデバイスがWideに対応している必要があります。

Wideデバイスに対しては、有効(Yes)、無効(No)どちらでも設定が可能です。Narrowデバイスに対しては、必ず無効(No)に設定してお使いください。

- **Enable Disconnection**(ディスクコネクトを有効にする)－この項目を選択すると、ディスクコネクト機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。

ディスクコネクトを行う設定になっているとSCSIデバイスが一時的に切り離され、その間ボードはSCSIバスを使い、他の操作を行うことができます。

- **Send Start Unit Command**(スタートユニットコマンドを送る)－この項目を選択すると、スタートユニットコマンド機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。

ほとんどのデバイスでこのような設定を行う必要はありません。スタートユニットコマンドを送る(Yes)設定にしている場合は、本機の起動時、ボードがコマンドを送ることによって接続しているSCSIデバイスが1台ずつ電源ONとなります。これにより本機の電源にかかる負荷を軽減します。

スタートユニットコマンドを送らない(No)設定にしている場合は、本機の起動時に接続されているSCSIデバイスすべてが一緒に電源ONになります。

この機能を使用するためには、接続するSCSIデバイスもこの機能に対応していなくてはなりません。

- **Enable Write Back Cache**(ライトバックキャッシュを有効にする)－この項目を選択すると、ライトバックキャッシュ機能の有効(Yes)、無効(No)、変化なし(N/C)を設定する画面が表示されます。

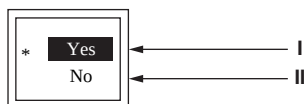
- **BIOS Multiple LUN Support**(BIOSマルチプルLUNサポート) —この項目を選択すると、マルチプルLUNサポート機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。起動デバイスに複数のLUNがある場合は、この設定を有効にする(Yes)にしてください。
- **Include in BIOS Scan**(BIOSスキャン) —この項目を選択すると、BIOSスキャン機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
BIOSスキャンを行わない(No)設定にすると、BIOSを使用しているOS上からデバイスが認識されなくなります。
BIOSスキャンを行う(Yes)設定でを使用することを推奨します。



チェック!!

イメージスキャナ、DATユニットを接続する場合は、イメージスキャナ、DATユニットに接続しているSCSI ID番号に対応した「Include in BIOS Scan」の設定を、必ず「No」に設定してください。

⑩ [デバイス有効/ 無効選択画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

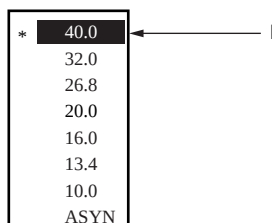
- I 設定を有効にする。 → ⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
- II 設定を無効にする。 → ⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
- 【ESC】 変更を中止する。 → ⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Yes)、無効(No)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑪ [転送速度設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい転送速度の値を反転させ、【Enter】を押してください。

<選択肢>

- I 転送速度を選択する。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
 【ESC】 変更を中止する。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ

画面説明

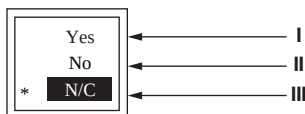
画面に表示されている転送速度の中から、デバイスに設定可能な範囲内で値を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。



チェック!! データバス幅の設定によって、設定できる転送速度が変わります。

⑫ [デバイス有効/ 無効/ 変化なし選択画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- I 設定を有効にする。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
 II 設定を無効にする。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
 III 設定を変化なしにする。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ
 【ESC】 変更を中止する。 →⑨ [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.203)へ

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Yes)、無効(No)、変化なし(N/C)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑬ [拡張設定画面]

Advanced Configuration Options	
Plug and Play SCAM Support	Disabled ← I
Reset SCSI Bus at IC Initialization	Enabled ← II
Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization	Enabled ← III
Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte	Enabled ← IV
Verbose/Silent Mode	Verbose ← V
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled	
Host Adapter BIOS	Enabled ← VI
Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks	Boot Only ← VII
BIOS Support for Bootable CD-ROM	Enabled ← VIII
BIOS Support for Int13 Extensions	Enabled ← IX

【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

I	SCAMの有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
II	SCSIバスリセットの有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
III	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
IV	1GB以上サポートの有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
V	Verbose/Silentの有効/無効設定	→⑮ [Verbose/Silent選択画面] (P.211)へ
VI	BIOSの有効/無効設定	→⑯ [BIOSの有効/無効設定画面] (P.211)へ
VII	リムーバブルディスク設定	→⑰ [リムーバブルディスク設定画面] (P.212)へ
VIII	起動CD-ROM機能有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
IX	INT13サポートの有効/無効設定	→⑭ [オプション有効/無効選択画面] (P.210)へ
【ESC】 変更を中止する。		→② [コンフィグレーション画面] (P.198)へ

画面の説明

- Plug and Play SCAM Support(SCAM機能サポート)**—この項目を選択すると、SCAM機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
 SCAM機能を使用する(Enabled)に設定した場合、ボードに接続されているSCSIデバイスのID番号が自動的に設定されます。
 ただし、この機能を使用するためには、接続したSCSIデバイスがSCAM機能に対応していません。
- Reset SCSI Bus at IC Initialization(SCSIバスリセット時のIC初期化)**—この項目を選択すると、SCSIバスリセット時のIC初期化機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。この機能は、Plug and Play SCAM Support設定でSCAM機能を使用する設定にした場合必ず、有効(Enabled)に設定してください。SCAM機能を使用しない場合は、無効(Disabled)に設定してください。

- **Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization**(Ctrl-Aメッセージの表示) — この項目を選択すると、起動時に「Press<Ctrl><A>for SCSI Select(TM)Utility!」メッセージを表示する機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。

起動時に「Press<Ctrl><A>for SCSI Select(TM)Utility!」を表示しない(Disabled)設定にしても、起動時に【Ctrl】を押しながら【A】を押すとユーティリティは起動します。

- **Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte**(DOSで1GB以上のドライブ使用) — この項目を選択すると、1GB以上の大容量デバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定することができます。

この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。

- **Verbose/Silent Mode**(起動時のバーナー表示) — この項目を選択すると、起動時に「Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx…」のメッセージを表示する機能の有効(Verbose)/無効(Silent)を設定する画面が表示されます。起動時にメッセージを表示しない(Silent)を設定しても、起動時に【Ctrl】を押しながら【A】を押すとユーティリティは起動します。

- **Host Adapter BIOS**(ホストアダプタBIOS) — この項目を選択すると、SCSI-BIOSの有効(Enabled)/無効(Disabled:NOT scan)/無効(Disabled:scan bus)を設定することができます。この機能が無効(Disabled:NOT scan)/無効(Disabled:scan bus)にすると、ボードに接続されているSCSIデバイスからの起動はできなくなります。無効(Disabled:NOT scan)にすると、scan busも無効になります。

この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。



チェック!!

Ultra SCSIインタフェースボード搭載モデルで、初回起動時に「EMM386 not installed」というエラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかの方法で対応を行ってください。

- config.sysで組み込まれているemm386.exeを無効にする。

c:\config.sysファイルを次のように修正してください。

(変更前)

```
device=c:\windows\emm386.exe ram
```

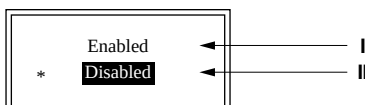
(変更後)

```
rem device=c:\windows\emm386.exe ram ← remを追加
```

ただし、この場合、XMSやDPMIに対応していないMS-DOSアプリケーションが正常に動作しなくなる場合がありますので、ご注意ください。

- **SCSI BIOSのブートを無効にする。**
SCSI SELECT画面の「Advanced Configuration Option」で「Host Adapter BIOS」を「Disabled」に変更してください。
ただし、この場合、SCSIインタフェースボードに接続した機器からはブートできませんのでご注意ください。
- **Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disk**（リムーバブルディスクサポート）—この項目を選択すると、BIOS上でのリムーバブルディスクの認識設定を変更する画面が表示されます。
- **BIOS Support for Bootable CD-ROM**（起動CD-ROMのBIOSサポート）—この項目を選択すると、CD-ROMドライブ起動機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
- **BIOS Support for Int13 Extension**（BIOSのINT13サポート）—この項目を選択すると、BIOSが1024シリンダより大きい容量のデバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。

⑭ [オプション有効/ 無効選択画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

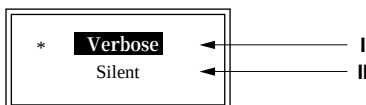
- | | | |
|----|----------------|----------------------|
| I | 選択した機能を有効にする。 | →⑮ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| II | 選択した機能を無効にする。 | →⑮ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | →⑮ [拡張設定画面] (P.208)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。変更したいモードによって異なります。

⑮ [Verbose/Silent選択画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

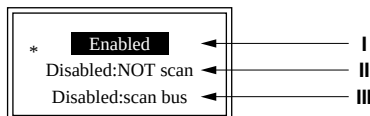
- I メッセージを表示 (Verbose) に設定する。 →⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ
- II メッセージを表示しない (Silent) に設定する。→⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ
- 【ESC】 変更を中止する。 →⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ

画面説明

前の画面で選択した機能のVerbose、Silentを選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑯ [BIOSの有効/ 無効設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

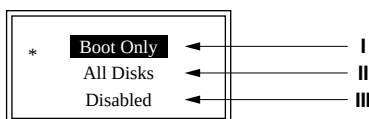
- I 設定を有効にする。 →⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ
- II 設定を無効、scan bus無効にする。→⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ
- III 設定を無効、scan bus有効にする。→⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ
- 【ESC】 変更を中止する。 →⑮ [拡張設定画面] (P.208) へ

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

⑪ [リムーバブルディスク設定画面]



【↑】【↓】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|-----|-----------------------------|----------------------|
| I | 起動デバイスのみハードディスクに設定する。 | →⑬ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| II | 全てのリムーバブルディスクをハードディスクに設定する。 | →⑬ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| III | 無効に設定する。 | →⑬ [拡張設定画面] (P.208)へ |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | →⑬ [拡張設定画面] (P.208)へ |

画面説明

- ・ 起動デバイスとして指定されるリムーバブルデバイスだけを、ハードディスクとして認識させる場合は、Boot Only(起動のみ)を選択してください。
- ・ BIOSがサポートするすべてのリムーバブルデバイスをハードディスクとして認識させる場合は、All Disks(ディスクすべて)を選択してください。
- ・ リムーバブルディスクをハードディスクとして認識させない場合は、Disabled(無効)を選択してください。この設定を行うと、リムーバブルディスクを認識させるために、ソフトウェアのドライバが必要となります。

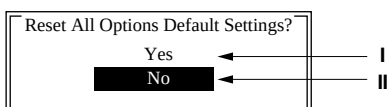
* 工場出荷時の設定値を表しています。



チェック!

ハードディスクとして認識させた場合は、リムーバブルディスクの媒体を取り出さないでください。

⑫ [初期設定変更画面]



【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

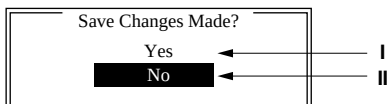
<選択肢>

- I 工場出荷時の設定に戻す。 →② [コンフィグレーション画面] (P.198) へ
- II 変更を中止する。 →② [コンフィグレーション画面] (P.198) へ

画面説明

すべての設定を工場出荷時の設定に戻す(Yes)、変更を中止する(No)のどちらかを選択してください。

①⑨ [設定保存画面]



【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

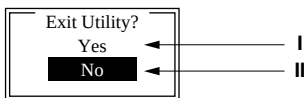
- I 変更した設定を保存する。 →① [SCSI SELECT起動画面] (P.197) へ
- II 変更した設定を保存しない。 →① [SCSI SELECT起動画面] (P.197) へ

画面説明

変更した値を保存する(Yes)、中止する(No)のどちらかを選択してください。

中止する(No)を選択すると、変更した設定はすべて変更前に戻ります。

②⑩ [ユーティリティ終了確認画面]



【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- I SCSI SELECTを終了する。 →②⑩ [再起動画面] (P.214) へ
- II SCSI SELECTを終了しない。 →① [SCSI SELECT起動画面] (P.197) へ

画面説明

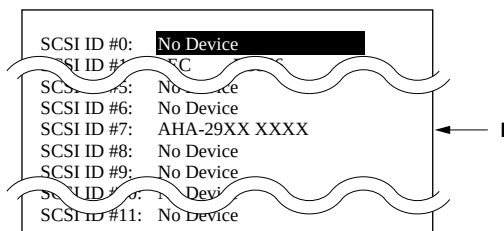
SCSI SELECTを終了する(Yes)、終了しない(No)を選択してください。

②① [再起動画面]

Please press any key to reboot

このメッセージが画面に表示されたら、[Enter]を押してください。
本体が再起動し、設定が有効になります。

②② [ディスクユーティリティ起動画面]



【↑】【↓】を使用して、処理を行いたいSCSIデバイスを反転させて
【Enter】を押してください。このとき、デバイスは、デバイス名称ではな
く、必ず設定されているSCSI ID設定を元にして選択してください。
(本ボードに対してフォーマットまたはベリファイ処理を行うことは
できません。)

<選択肢>

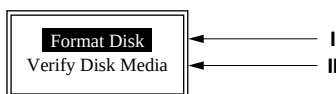
- ↑ デバイスを選択する。 → ②③ [フォーマット/ベリファイ選択画面] (P.214)へ
[ESC] 変更を中止する。 → ① [SCSI SELECT起動画面] (P.197)へ

画面説明

ボードに接続されているSCSIデバイスの一覧をSCSIデバイスが返す
情報を元に表示しています。(SCSI ID #7: AHA-29XX XXXXは本ボ
ードを示しています。)

接続しているSCSIデバイスの種類や、ボードの設定によって表示内
容が異なります。また、ここで表示されるSCSIデバイスの名称は、使用し
ている製品名と一致しないことがあります。

②③ [フォーマット/ベリファイ選択画面]



【↑】【↓】を使用して、行いたい処理項目を反転させて【Enter】を押して
ください。

<選択肢>

- | | | |
|----|------------|---------------------------|
| I | フォーマットをする。 | →②④ [フォーマット確認画面1] へ |
| II | ベリファイをする。 | →②⑧ [ベリファイ確認画面] (P.216) へ |

画面説明

- **Format Disk**(フォーマットディスク)ーこの項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行うことができます。
- **Verify Disk Media**(ベリファイディスクメディア)ーこの項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対してベリファイを行うことができます。

②④ [フォーマット確認画面1]

【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|----|--------------|---------------------------------|
| I | フォーマットをする。 | →②⑤ [フォーマット確認画面2] (P.215) へ |
| II | フォーマットを中止する。 | →②② [ディスクユーティリティ起動画面] (P.214) へ |

画面説明

低レベルフォーマット処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。本当に低レベルフォーマットを行うデバイスであることを確認の上、フォーマットを行う(Yes)、中止する(No)のどちらかを選択してください。



チェック!!

- フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
- フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②⑤ [フォーマット確認画面2]

【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- | | | |
|----|--------------|---------------------------------|
| I | フォーマットをする。 | →②⑥ [フォーマット中画面] (P.216) へ |
| II | フォーマットを中止する。 | →②② [ディスクユーティリティ起動画面] (P.214) へ |

画面説明

再度、低レベルフォーマットを行うかどうかを確認を求めてきますので、再度、SCSI ID、デバイス情報、そして容量等を確認の上、フォーマット処理を行う(Yes)、処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

- ☑ **チェック!!**
- ・ フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
 - ・ フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②⑥ [フォーマット中画面]

!!! please Wait !!! !!! please Wait !!!
Depending on your disk Capacity,formatting
may take from one minute to several hours.
!!! please Wait !!! !!! please Wait !!!

フォーマットが終了すると、②⑦ [フォーマット終了画面]が表示されます。

画面説明

低レベルフォーマットが開始されます。そのまま、しばらくお待ちください。

接続されているSCSIデバイスの容量によって数分から数時間かかることがあります。

②⑦ [フォーマット終了画面]

Formatting Complete

何かキーを押すと②⑧ [ディスクユーティリティ起動画面] (P.214)へ戻ります。

画面説明

低レベルフォーマットが正常に終了するとフォーマットは完了しました(Formatting Complete)と表示されます。

②⑧ [ベリファイ確認画面]

Verify Disk?
Yes ← I
No ← II

【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

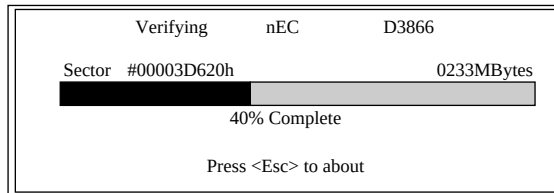
- I ベリファイをする。 →②⑨ [ベリファイ中画面] へ
- II ベリファイを中止する。 →②② [ディスクユーティリティ起動画面] (P.214) へ

画面説明

ベリファイ処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。

ベリファイ処理を行うか再度確認してきますので、ベリファイ処理を行う(Yes)、処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

②⑨ [ベリファイ中画面]



[Esc]を押すと処理を中止することができます。

ベリファイが終了すると③⑩ [ベリファイ終了画面]が表示されます。

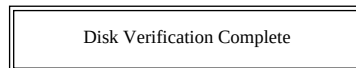
<選択肢>

- [ESC] 処理を中止する。 →③① [ベリファイ中止確認画面] (P.218) へ

画面説明

ベリファイ処理が開始されます。画面中央のバーが右へ進んで行き、実施状況を画面に表示しています。

③⑩ [ベリファイ終了画面]

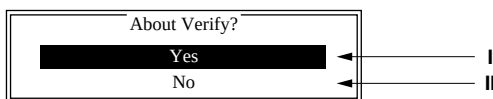


何かキー押すと②② [ディスクユーティリティ起動画面] (P.214)に戻ります。

画面説明

ベリファイが正常に終了すると、ディスク調査は完了しました(Disk Verification Complete)と表示されます。

③① 【ベリファイ中止確認画面】



【↑】【↓】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

- I ベリファイを中止する。 →②②【ディスクユーティリティ起動画面】(P.214)へ
- II ベリファイを続行する。 →②⑨【ベリファイ中画面】(P.217)へ

画面説明

ベリファイ処理中止を行うか再度確認を求めてくるので、ベリファイを中止する(Yes)、ベリファイを続行する(No)のどちらかを選択してください。

5

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	220
割り込みレベル・DMAチャネル	231
本機のお手入れ	233

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧



MA10T/C、MA86T/C、MA80T/C本体機能仕様

表中の※は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名			MA10T/C	MA86T/C	MA80T/C
CPU	CPU種別		インテル® Pentium® IIIプロセッサ		
	クロック周波数		1GHz	866MHz	800EB MHz
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB		
		二次	256KB		
	システムバス		133MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM (Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM ※		最大512MB DIMMスロット×2		
	ビデオRAM		メインRAMと共有して使用(メインRAMから8~11MB占有、表示領域として使用されるのは一部)		
表示機能	ウインドウアクセラレータ		Intel® 810E Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能			YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ ※		3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ×1		

機種名		MA10T/C		MA86T/C	MA80T/C
補助記憶装置	ハードディスクドライブ ※		UltraATA66対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセクションの内容により異なります			
		Windows Me インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約850MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,180MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,490MB		
	Windows 98 インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約790MB Office 2000 Personalモデル:約1,160MB Office 2000 Professionalモデル:約1,200MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,540MB			
	光ディスク関連 ※				
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速			
	CD-R/RWDライブ	内蔵 読み込み:CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速			
インタフェース	ディスプレイ				
	アナログRGB		アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB		デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン		
	シリアル		最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル		D-sub25ピン		
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連				
	入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db		
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
	出 力	ヘッドホン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω)		
		ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)		
	通信関連 ※				
	LANボード		RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能		
	FAXモデムボード		電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		
	入力関連 ※				
	PS/2 109キーボード		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続		
テンキー付きPS/2小型キーボード		マウスコネクタに接続			
USB109キーボード		キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続			
USB小型キーボード		(バスパワーハブ×2)			
USB98配列キーボード					
PCIスロット[空き] ※			2スロット(ハーフサイズ×2)[2] (ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)で占有済))[1]		
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]		1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)[0]		
	内蔵3.5型ベイ[空き]		1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[0]		
	5型ベイ[空き]		1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDライブで占有済)[0]		
カレンダー時計			電池によるバックアップ		
セキュリティ/マネージメント機能	セキュリティ機能		スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化(「PGP Personal Privacy」標準添付)、I/Oロック、ハードディスクパスワード機能、ウイルス検出・駆除(「Virus Scan」標準添付)、エンドユーザ管理(「CyberAccess」標準添付)、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知(「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」標準添付)、ケーブルストップ		

機種名		MA10T/C	MA86T/C	MA80T/C
セキュリティ/マネジメント機能	マネジメント機能	ハードウェアモニタ*、障害時の自動バックアップ機能(「Masty Data Backup」標準添付)、ソフトウェアパワーOFF、リモートパワーオン機能*、リモートコントロール(「PcAnywhere 9.2 EX」標準添付)、ネットワークブート、一括ファイル配信(「ESMPRO/DeliveryManagerクライアント」)、クライアントモニタリング*、OFFstate Alert II機能* *(「Intel LANDesk Client Manager 6 (with NEC Extensions)」標準添付)		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10～35℃、20～80% (但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時	約30W (最大約64W)		
	エネルギー消費効率	R区分 0.0091	R区分 0.010	R区分 0.011
外形寸法	本体	316 (H)×320 (D)×86 (W) mm (スタビライザ(縦置き台)含まず)、 316 (H)×320 (D)×155 (W) mm (スタビライザ(縦置き台)使用時)		
	キーボード ※			
	PS/2 109キーボード	40 (H)×169 (D)×456 (W) mm		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39 (H)×189 (D)×382 (W) mm		
	USB109キーボード	39 (H)×179 (D)×472 (W) mm		
	USB小型キーボード	40 (H)×178 (D)×370 (W) mm		
質量	本体	約7.0Kg		約6.9Kg
	キーボード ※			
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg		
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	USB小型キーボード	約1.0Kg		
	USB98配列キーボード	約1.1Kg		



MA66H/C、MA66H/Z、MA66H/L本体機能仕様

表中の※は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA66H/C	MA66H/L	MA66H/Z (NetPCモデル)	
CPU	CPU種別	インテル® Celeron™ プロセッサ			
	クロック周波数	667MHz			
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB		
		二次	128KB		
	システムバス	66MHz (メモリバス:100MHz)			
メモリ	BIOS ROM (Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応			
	メインRAM ※	最大512MB DIMMスロット×2			
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用 (メインRAMから8～11MB占有、表示領域として使用されるのは一部)			
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810E Chipsetに内蔵 (DVMアーキテクチャ採用)			
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)			
サウンド機能		YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵 (ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8～48KHz)、全二重対応 (モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ ※	3.5型フロッピーディスクドライブ (3モード対応) × 1、またはスーパーディスクドライブ×1			
	ハードディスクドライブ ※	UltraATA66対応、SMART機能対応			
	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセレクションの内容により異なります			
	Windows Me インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約850MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,180MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,490MB			
		Windows 98 インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約790MB Office 2000 Personalモデル:約1,160MB Office 2000 Professionalモデル:約1,200MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,540MB		
	光ディスク関連 ※				
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速			
	CD-R/RWドライブ	内蔵 読み込み: CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み: CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速			
	インタフェース	ディスプレイ			
アナログRGB		アナログRGBセパレート信号出力 (75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン			
		デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力 (TMDS)、DFP20ピン		
シリアル		最大115,200bps、D-sub9ピン			
パラレル		D-sub25ピン			
USB		2 (本体正面×1、本体背面×1)			
サウンド関連					
入 力		マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db		
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
出 力		ヘッドホン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms (負荷インピーダンス33Ω)		
	ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms (負荷インピーダンス47KΩ)			

機種名		MA66H/C	MA66H/L	MA66H/Z (NetPCモデル)
インタフェース	通信関連 ※			
		LANボード	RJ45 (100BASE-TX/10BASE-T) LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
		FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ	_____
	入力関連 ※			
		PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
		テンキー付きPS/2小型キーボード		
		USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続 (バスパワーハブ×2)	
		USB小型キーボード		
		USB98配列キーボード		
	保守用FDDコネクタ	_____	管理者用外付けFDDドライブを接続	
PCIスロット [空き] ※		2スロット (ハーフサイズ×2) [2] (ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1 (Ultra SCSIインタフェースボード (Wide対応) で占有)) [1]		2スロット (ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1 (保守用FDDコネクタで占有)) [1]
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット (フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有) [0]		
	内蔵3.5型ベイ [空き]	1スロット (ハードディスクドライブで占有) [0]		
	5型ベイ [空き]	1スロット (CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブで占有) [0]		_____
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリティ/マネジメント機能	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化 (「PGP Personal Privacy」標準添付)、I/Oロック、ハードディスクパスワード機能、ウイルス検出・駆除 (「VirusScan」標準添付)、エンドユーザ管理 (「CyberAccess」標準添付)、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知* (「Intel LANdesk Client Manager 6 (with NEC Extentions)」標準添付)、ケーブルストッパ ※ MA66H/Lでは利用できません。		
	マネジメント機能	ハードウェアモニタ*3、障害時の自動バックアップ機能 (「Masty Data Backup」標準添付)*3、ソフトウェアパワーOFF、リモートパワーオン機能*2、リモートコントロール*2 (「pcAnywhere 9.2 EX」標準添付)、ネットワークブート*3、一括ファイル配信 (「ESMPRO/DeliveryManagerクライアント」)、クライアントモニタリング*1*2 *1 (「Intel LANdesk Client Manager 6 (with NEC Extentions)」標準添付) *2 MA66H/Lの場合は (「別売のDMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版)」が必要) *3 MA66H/Lでは利用できません。		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10～35°C、20～80% (但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時	約29W (最大約64W)		約29W (最大約62W)
	エネルギー消費効率	R区分 0.013		R区分 0.011
外形寸法	本体	316 (H) × 320 (D) × 86 (W) mm (スタビライザ (縦置き台) 含まず)、 316 (H) × 320 (D) × 155 (W) mm (スタビライザ (縦置き台) 使用時)		
	キーボード ※			
		PS/2 109キーボード	40 (H) × 169 (D) × 456 (W) mm	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	39 (H) × 189 (D) × 382 (W) mm	
		USB109キーボード	39 (H) × 179 (D) × 472 (W) mm	
		USB小型キーボード	40 (H) × 178 (D) × 370 (W) mm	
		USB98配列キーボード	39 (H) × 179 (D) × 472 (W) mm	
質量	本体	約6.9Kg		約5.9Kg
	キーボード ※			
		PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg	
		USB109キーボード	約1.2Kg	
		USB小型キーボード	約1.0Kg	
		USB98配列キーボード	約1.1Kg	



MA10T/S、MA80T/S、MA66H/S本体機能仕様

表中の※は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

5
付
録

機種名			MA10T/S	MA80T/S	MA66H/S	
CPU	CPU種別		インテル® Pentium® IIIプロセッサ		インテル® Celeron™ プロセッサ	
	クロック周波数		1GHz	800EB MHz	667MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB			
		二次	256KB			
システムバス		133MHz(メモリバス:100MHz)			66MHz(メモリバス:100MHz)	
メモリ	BIOS ROM (Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応			
	メインRAM ※		最大512MB DIMMスロット×2			
	ビデオRAM		メインRAMと共有して使用(メインRAMから10～13MB占有、表示領域として使用されるのは一部)			
表示機能	ウィンドウアクセラレータ		Intel® 810E Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)			
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)			
サウンド機能			PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート7～48KHz)、全二重対応、ソフトウェアサウンド機能、プザー装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1			
	ハードディスクドライブ ※		UltraATA66対応、SMART機能対応			
	出荷時ソフトウェア占有量		搭載するメモリの容量やセレクションの内容により異なります			
	Windows Me インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約850MB				
		Office 2000 Personalモデル:約1,150MB				
		Office 2000 Professionalモデル:約1,180MB				
	Windows 98 インストールモデル	一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,490MB				
		アプリケーションレスモデル:約790MB				
		Office 2000 Personalモデル:約1,160MB				
	Office 2000 Professionalモデル:約1,200MB					
一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,540MB						
光ディスク関連 ※						
CD-ROMドライブ		内蔵 最大40倍速				
CD-R/RWDライブ		内蔵 読み込み:CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速				
インタフェース	ディスプレイ					
	アナログRGB		アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン			
	デジタルRGB		デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン			
	シリアル		最大115,200bps、D-sub9ピン			
	パラレル		D-sub25ピン			
	MIDI/Joystic		D-sub15ピン(利用できません)			
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)			
	サウンド関連					
	入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db			
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db			
出 力	ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)				

機種名		MA10T/S	MA80T/S	MA66H/S
インタフェース	通信関連 ※			
	LANボード	RJ45 (100BASE-TX/10BASE-T) LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		
	入力関連 ※			
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	マウスコネクタに接続		
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	USB小型キーボード	(バスパスワードハブ×2)		
	USB98配列キーボード			
PCIスロット [空き] ※		3スロット (フルサイズ×2、ハーフサイズ×1 (LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)) [2] (フルサイズ×1、ハーフサイズ×1 (Ultra SCSIインタフェースボード (Wide対応) で占有済)、ハーフサイズ×1 (LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)) [1]		
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット (フロッピーディスクドライブで占有済) [0]		
	内蔵3.5型ベイ [空き] ※	2スロット (ハードディスクドライブで1スロット占有済) [1] (追加ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [0]		
	5型ベイ [空き]	2スロット (CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブで1スロット占有済) [1]		
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリティ/マネジメント機能	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化 (「PGP Personal Privacy」標準添付)、I/Oロック、ウイルス検出・駆除 (「Virus Scan」標準添付)、エンドユーザ管理 (「CyberAccess」標準添付)、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知 (「Intel LANDesk Client Manager 6 (with NEC Extensions)」標準添付)		
	マネジメント機能	ハードウェアモニタ*、障害時の自動バックアップ機能 (「Masty Data Backup」標準添付)、ソフトウェアパワーOFF、リモートパワーオン機能*、リモートコントロール (「PcAnywhere 9.2 EX」標準添付)、ネットワークブート、一括ファイル配信 (「ESMPRO/DeliveryManagerクライアント」、クライアントモニタリング* * (「Intel LANDesk Client Manager 6 (with NEC Extensions)」標準添付)		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10～35℃、20～80% (但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時	約28W (最大約169W)		約27W (最大約169W)
	エネルギー消費効率	R区分 0.0092	R区分 0.011	R区分 0.013
外形寸法	本体	140 (H)×394 (D)×430 (W) mm (ゴム足以外の突起物含まず)		
	キーボード ※			
	PS/2 109キーボード	40 (H)×169 (D)×456 (W) mm		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39 (H)×189 (D)×382 (W) mm		
	USB109キーボード	39 (H)×179 (D)×472 (W) mm		
	USB小型キーボード	40 (H)×178 (D)×370 (W) mm		
	USB98配列キーボード	39 (H)×179 (D)×472 (W) mm		
質量	本体	約9.5Kg		
	キーボード ※			
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg		
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	USB小型キーボード	約1.0Kg		
	USB98配列キーボード	約1.1Kg		



MA10T/M、MA80T/M本体機能仕様

表中の※は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名			MA10T/M	MA80T/M	
CPU	CPU種別		インテル® Pentium® IIIプロセッサ		
	クロック周波数		1GHz	800EB MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB		
		二次	256KB		
	システムバス		133MHz(メモリバス:800MHz)		
メモリ	BIOS ROM (Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM ※		ECC機能対応 最大512MB RIMMSロット×2		
	ビデオRAM		8MB (SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ		nVIDIA™社製Vanta™搭載 (AGPスロット)		
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能			YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ブザー装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ ※		UltraATA66対応、SMART機能対応		
	Windows Me インストールモデル	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセレクションの内容により異なります		
		アプリケーションレスモデル	約850MB		
		Office 2000 Personalモデル	約1,150MB		
	Windows 98 インストールモデル	Office 2000 Professionalモデル	約1,180MB		
		一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル	約1,490MB		
		アプリケーションレスモデル	約800MB		
	Office 2000 Personalモデル	約1,160MB			
	Office 2000 Professionalモデル	約1,190MB			
一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル	約1,540MB				
光ディスク関連 ※					
	CD-ROMドライブ		内蔵 最大40倍速		
	CD-R/RWDライブ		内蔵 読み込み:CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速		
インタフェース	ディスプレイ				
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン			
		デジタルRGB			
	デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン				
	シリアル				
	コネクタ1	最大115,200bps、D-sub9ピン			
		最大115,200bps、D-sub9ピン			
	コネクタ2				
	パラレル		D-sub25ピン		
	MIDI/ Joystic		D-sub15ピン(利用できません)		
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連				
	入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大100mVrms、ゲイン20db		
ライン入力			ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
出 力		ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)		

機種名		MA10T/M	MA80T/M
インタフェース	通信関連 ※		
		LANボード	
		RJ45 (100BASE-TX/10BASE-T) LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能	
	入力関連 ※	FAXモデムボード	
		電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ	
		PS/2 109キーボード	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	
USB109キーボード			
	USB小型キーボード		
	USB98配列キーボード		
PCISロット [空き] ※		5スロット (フルサイズ×4、フルサイズ×1 (LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)) [4] (フルサイズ×3、フルサイズ×1 (Ultra SCSIインタフェースボード (Wide対応) で占有済)、フルサイズ×1 (LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)) [3]	
AGPスロット [空き]		1スロット (アクセラレータボードで占有済) [0]	
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]		2スロット (フロッピーディスクドライブで1スロット占有済) [1]
	内蔵3.5型ベイ [空き] ※		3スロット (ハードディスクドライブで1スロット占有済) [2] (追加ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [1]
	5型ベイ [空き]		2スロット (CD-ROMまたはCD-R/RWドライブで1スロット占有済) [1]
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント機能	セキュリティ機能		スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化 (「PGP Personal Privacy」標準添付)、I/Oロック、ハードディスクパスワード機能、ウイルス検出・駆除 (「Virus Scan」標準添付)、エンドユーザ管理 (「CyberAccess」標準添付)、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知 (「Intel LANDesk Client Manager 6 (with NEC Extensions)」標準添付)、ケーブルストッパ
	マネジメント機能		ハードウェアモニタ*、障害時の自動バックアップ機能 (「Masty Data Backup」標準添付)、ソフトウェアパワーOFF、リモートパワーオン機能*、リモートコントロール (「PcAnywhere 9.2 EX」標準添付)、ネットワークブート、一括ファイル配信 (「ESMPRO/Delivery Managerクライアント」)、クライアントモニタリング*、OFFstate Alert II機能* * (「Intel LANDesk Client Manager 6 (with NEC Extensions)」標準添付)
環境条件	電源		AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度条件		10～35℃、20～80% (但し結露しないこと)
消費電力	本体標準構成時		約36W (最大約218W)
	エネルギー消費効率		R区分 0.013
外形寸法	R区分 0.016		
	本体		447 (H) × 455 (D) × 177 (W) mm (ゴム足以外の突起物含まず)
	キーボード ※		
	PS/2 109キーボード		40 (H) × 169 (D) × 456 (W) mm
	テンキー付きPS/2小型キーボード		39 (H) × 189 (D) × 382 (W) mm
	USB109キーボード		39 (H) × 179 (D) × 472 (W) mm
	USB小型キーボード		40 (H) × 178 (D) × 370 (W) mm
	USB98配列キーボード		39 (H) × 179 (D) × 472 (W) mm
質量	本体		約13.6Kg
	キーボード ※		
	PS/2 109キーボード		約0.9Kg
	テンキー付きPS/2小型キーボード		約0.9Kg
	USB109キーボード		約1.2Kg
	USB小型キーボード		約1.0Kg
	USB98配列キーボード		約1.1Kg

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	適用回線	加入電話回線
	同期方式	半二重調歩同期方式
	通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注
	通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
	変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
	送信レベル	-10~-15dBm (出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド (CLASS1)
	適用回線	加入電話回線
データモデム機能	同期方式	全二重調歩同期方式
	通信速度	送受信:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ:56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33333/ 32000/30667/29333/28000bps 注
	通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
	変調方式	TCM: 56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33600/ 33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400/1200bps FSK: 1200/300bps
	エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4
	データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
	送信レベル	-10~-15dBm (出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	適用回線	加入電話回線
NCU機能	ダイヤル方式	パルスダイヤル (10/20PPS) トーンダイヤル (DTMF)
	NCU形式	AA (自動発信 / 自動着信型) MA (手動発信 / 自動着信型) MM (手動発信 / 手動着信型) AM (自動発信 / 手動着信型)
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド (CLASS1)
	適用回線	加入電話回線

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

ATコマンド

ATコマンドについては、『ATコマンド』(ここをクリック)をご覧ください。

割り込みレベル・DMAチャネル

割り込みレベル

工場出荷時の割り込みレベルの割り当ては、次の通りです。

Me... ■ Windows Meの場合

割り込み レベル	デバイス		
	MA10T/C、MA86T/C、 MA80T/C、MA66H/C、 MA66H/Z、MA66H/L	MA10T/S、MA80T/S、 MA66H/S	MA10T/M、 MA80T/M
IRQ00	カウンタおよびタイマ		
IRQ01	PS/2接続キーボード		
IRQ02	割り込みコントローラ		
IRQ03	(空)		
IRQ04	シリアルポートA ※		
IRQ05	(空)		MIDI
IRQ06	フロッピーディスクドライブ		
IRQ07	パラレルポート ※		
IRQ08	リアルタイムクロック		
IRQ09	ACPIで使用されているSCI IRQ/サウンド/SMBus Controller	USB	USB/LANまたはFAX/サウン ド/ACPIで使用されているSCI IRQ/SMBus Controller
IRQ10	グラフィック/LAN またはFAX	SMBus Controller/ サウンド	グラフィック
IRQ11	USB	ACPIで使用されているSCI IRQ/グラフィック/LANまた はFAX	USB
IRQ12	PS/2接続マウス		
IRQ13	数値演算コプロセッサ		
IRQ14	プライマリIDE		
IRQ15	セカンダリIDE		

※別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。

98… ■Windows 98の場合

割り込み レベル	デバイス		
	MA10T/C、MA86T/C、 MA80T/C、MA66H/C、 MA66H/Z、MA66H/L	MA10T/S、MA80T/S、 MA66H/S	MA10T/M、 MA80T/M
IRQ00	カウンタおよびタイマ		
IRQ01	PS/2接続キーボード		
IRQ02	割り込みコントローラ		
IRQ03	(空き)		
IRQ04	シリアルポートA ※		
IRQ05	(空き)	LANまたはFAX	MIDI
IRQ06	フロッピーディスクドライブ		
IRQ07	パラレルポート ※		
IRQ08	リアルタイムクロック		
IRQ09	サウンド	USB	LANまたはFAXおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX、およびグラフィック(シェア)	サウンド	グラフィック
IRQ11	USB	グラフィック	USB
IRQ12	PS/2接続マウス		
IRQ13	数値演算コプロセッサ		
IRQ14	プライマリIDE		
IRQ15	セカンダリIDE		

※別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。

参照

「PART2 システム設定(省スペース型、ミニタワー型の場合)」 「Advancedの設定」の「I/O Device Configuration」(P.138)、「PART3 システム設定(デスクトップ型の場合)」 「Peripheral Setupの設定」(P.184)

DMAチャンネル

工場出荷時のDMAチャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA チャンネル	データ幅	デバイス
0	8または16ビット	(空き)
1	8または16ビット	(空き)
2	8または16ビット	フロッピーディスク ※
3	8または16ビット	(空き)
4		DMAコントローラ
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

※省スペース型のスーパーディスク搭載モデルは、「(空き)」になります。

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

注意



感電注意

- お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
感電の原因になります。



発火注意

- 電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。
電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

本体

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

本体の内部

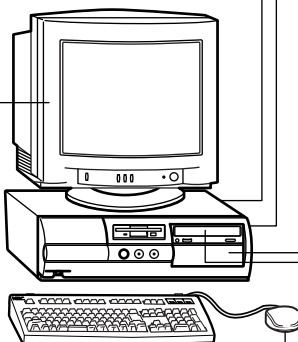
長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、NECに相談してください。NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。



フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブ
クリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。→「スーパーディスクドライブのクリーニング」（P.236）

キーボード

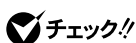
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECに相談してください。NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。→「マウスのクリーニング」（次ページ）

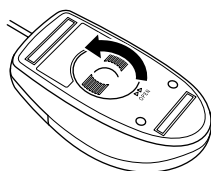


- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学そうきは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

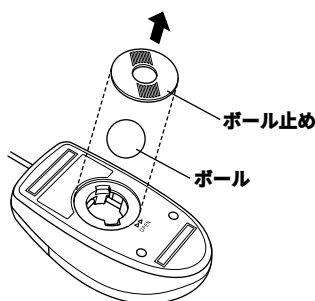
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



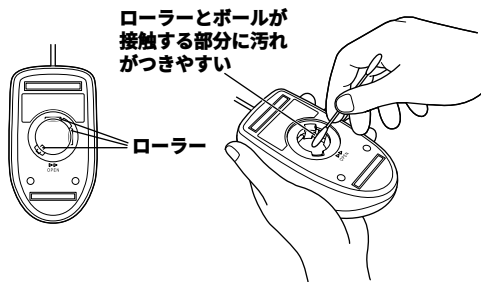
- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

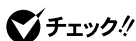
7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やほみがき粉などを付けないでください）。



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定



チェック!!

- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

スーパーディスクドライブのクリーニング

スーパーディスクドライブでフロッピーディスクを使用していると、ヘッドが汚れ、読み書き時にエラーが発生する場合があります。万一、ご使用中にエラーが発生した場合には、スーパーディスクドライブ専用のクリーニングキットを使用してください。

推奨クリーニングキット

イメーション株式会社製:LS-120HCL

フロッピーディスクドライブ用のクリーニングディスクなどを使用すると、ヘッドが摩耗し、障害を招く場合がありますのでご注意ください。なお、商品の最新情報は、インターネットの次のホームページをご覧ください。

<http://www.imation.co.jp/>



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate

省スペース型
デスクトップ型
ミニタワー型

(Windows Meインストールモデル)
(Windows 98インストールモデル)

初版 2000年10月

NEC

P